

平成26年（西暦2014年）11月

瞑想録（そのプレ）

滝沢 無縛（たきざわ むばく）

本論は私の日々の瞑想の結果をまとめたものです。その瞑想の主題は、東洋思想に基づく「連続体と蓋然論理」です。究極的には科学と対をなすと思っているものですが、科学周辺に位置するものの、科学そのものではありません。学問でもありません、再現性も絶対真も保証しないことを「売り」としているからです。また、瞑想であるという特性上、根拠をこれ以上提示できない言明も含まれています。特に主題以外の部分には、現行の常識では「誤り」とされていることやタブーとされていることも含まれていますが、あくまでも主題を見て下さい。その上で言明を信じるか信じないか、それは読者一人一人に委ねられています。なお、「真理は深いほど簡潔であるべきだ」と言う立場からは、この論集における何十頁ものだらだら書きは、残念ながら私がまだ真理の核心に到達していないことを、如実に表しています。なお、この論集の基礎となる先立つ瞑想録については、下記のサイトを参照してください。

<http://www.geocities.co.jp/bimromav13/>

2011. 06. 05 52

## 1、教会物語

太郎君はちょっと裏道を通ってみた。するとちょっと変わった建物がある。十字架があるところを見ると、教会らしい。看板が立っているので何気なく見てみる。主日礼拝が何時からとか書いてある。すると中からそれらしい服を着た人が出てきた。どうも牧師らしい。

牧師：ああそこの君、教会に興味があるのでしょうか。さあ遠慮せずに中に入りなさい。

太郎：はあ、どうも。でもちょっと看板を見ていただけですから。

牧師：それがすでにもう私たちの仲間だということです。さあ、中に入りましょう、あなたの家です。

太郎：はあ、中に何かあるのですか。

牧師：もちろんだ。教会は天と地を結ぶチャンネルで、中には生けるイエス様が住んでおられる。

太郎：イエス様って、あの十字架にかかって死んだとかいう人ですか。

## 瞑想録（そのプレ）

牧師：そうだ、イエス様はあなたの罪を背負って亡くなられ、3日後に復活されたのだ。

太郎：僕の罪ですか、別に背負ってくれとか頼んでないのですけど。それにもう昔の人でしょう。

牧師：いやいや、復活されて今も生きておられる。そして再臨の時には生けるものと死ねるものを裁き給うのだ。君も今すぐイエス様を信じなさい。さもないともし今日再臨があったらもう間に合わない。

太郎：再臨界ですか、それは怖いですね。中にあるのは原子炉なのだ。

牧師：再臨界でなく再臨だ。それにハルマゲドンがやってくる。ドカンだぞ。大震災だぞ。

太郎：僕、田舎は福島ではないのですよ。それに実家は代々仏教ですから。

牧師：そんなことは聞いていない。それより君はイエス様に何ができるのだ。

太郎：数学と物理なら得意分野ですが。

牧師：何を言っているのだ、君の得意分野ではなくてイエス様が喜ぶことを聞いているのだ。教会堂の掃除なんかどうだい。

太郎：人の家の掃除ですか。あなたは何か頭がずれていませんか。

牧師：つべこべ言わんと掃除をしなさい。それが終わったら伝道だ。

太郎：僕もう結構ですから。

牧師：君の結構なんか聞いていないのだよ。イエス様は君を選ばれたのだ。誰もが小さなパウロだ。さあ伝道を始めなさい。

太郎：どうすればいいのですか。

牧師：君は新入信者だから見習いから始める。先ず伝道委員会に入り、伝道委員長の長老の指示のもと、チラシを配って歩くのだ。そして会った人々に「目覚めよ、天の時は訪れた、悔い改めて良い実を結べ」と叫ぶのだ。

太郎：まだ信者になっていないのですけど。

牧師：そうだったな、じゃあ今すぐ洗礼をしよう。裸になってパンツ1枚になりなさい。

太郎：ええ！人の家で裸になるのですか。何か素朴に変だなあ。

牧師：はい、その水風呂に入る。イエスの御名によって洗礼を施す。さあ、アーメンと言いなさい。

太郎：うう、冷たい。ゴボゴボ。良く分からないけど信じます、アーメン。

牧師：よし、はい平信徒一丁上がり。君は私の洗礼28号だ。

太郎：何気に鉄人28号の乗りですね。まあ良いか。何が良いか分からないけど。

## 瞑想録（そのプレ）

牧師：分からないだと。つべこべ言わんとさっさと服を着て仕事をしろ。

太郎：なんで急に横柄な口のきき方をするのですか。

牧師：下がれ、サタン、お前はもう平信徒、私はイエス様の代理人、私の命令は絶対だ。口答えは許さんぞ。先ず献金だ。お前の持ち金を全部、今すぐその箱に入れなさい。さもないとたたりがあがるぞ。

太郎：何か悪い夢でも見ているようだ。なんでたたられないといかんのだろう。

牧師：父なる神はねたむ神だ。すべてを見通しておられる。聖なるかな。ポポポポーン。

太郎：ひええ、目が変だ。ひょっとしてこちら、悪いカルトじゃないですか。

牧師：ワルイカルト……デワナイ……ビヨーン。ワレワレハニホンヲセイフクニキタ。ピーポ、ピーポ。ガガガガガー。

太郎：うわああ！ ああ、やっと目が覚めた。なんて悪い夢だ。もう見たくない。怖くて眠れないよ。

こうして太郎君の悪夢は終わった。みんなも怖いもの見たさで怪しいところに近づくことはやめようね。

## 2、ネット直接民主制

インターネットによって世の中はずいぶん変わったし、これからももっと変わっていくだろう。その第一は知識の平等化、無料化だ。グーテンベルクが印刷術を発見するまでは本は一々筆写、人件費が膨大にかかり、極めて裕福でなければいくら能力があっても知識は得られなかった。それが印刷術によって知識の値段がぐっと庶民化した。

ただ庶民化と言ってもあくまでも本を買えるレベルで、知識が成書になるまでにはやはり手間と時間がかかるし、また一度絶版になるとなかなか入手できない、さらには商業レベルに乗らない知識はいくら貴重でもおもしろくても、本にならず拡散共有できないと言う欠点があった。ところがネットのおかげでこれらの欠点はすべて補完されてしまった。もはや無名人、お金のない人も自由に意見を発信できるし、その中には突然売れるとか、有名になった人も居る。

誰でもが好きな時に好きなことをコストなしで発信できる、この状態は政治の在り方すらも変えた。すなわち間接民主制から直接民主制への限りない移行である。民主主義は歴史上、先ず直接民主制として始まった。それが間接民主制に移行したのは、間接性の方が優れていると言った積極的な理由よりもむしろ、人口の増大とともに直接民主制がとても保持できなくなったからという消極的な理由である。

## 瞑想録（そのプレ）

その結果、衆愚な選挙とか、密室政治とか、ロビー活動とか、愚民政治とか、間接的で見えないことを悪用した、政治のための政治がはびこった。これらは言わば必要悪であった。そしてこの状態もネットの声が翻しつつある。政治もネットの動向を新聞報道以上に重視するようになった。最近の例では福島原発の所長の独断の注水に係る処分について、ネット上で反対の大合唱が起こり、管首相もこれを見做せず「結果無罪」の宣言を出すに至ったことを挙げることができる。

ただ、このネット直接民主制、良いことばかりではない。欠点としては政治が衆愚になりやすいことである。やはり最近の例を挙げると、浜岡原発強制停止には賛成の声が多くて、管首相も気を良くしているようだが、もしこの措置が本気で東海地震を心配したものなら、東海沿岸の諸都市に併せて堤防を築こうとしないのは明らかに片手おちである。そして人々はここまで深くは理解せず、管首相のパフォーマンスを許してしまっている。

とは言え、庶民の声が政治に反映されやすくなったのはネットの大手柄であって、たとえどんな欠点があろうともこれを覆すことはできないし、してはならない。

### 3、使徒パウロと私

始めに断っておきますが、私は一神教、特にキリスト教が大嫌いです。理由は、第一に一見親切そうで実は傲慢の限りであること、第二にアジア・アフリカの侵略の手先となりまたそれに根拠を与えてきたからです。更に近所迷惑を顧みずに人の家に土足で入ってきて、自分以外を全部変えないと気が済まない態度も、やはり近所迷惑を顧みずに大声で自己宣伝しまくる態度も嫌いです。

嫌いなのですが、決して大げさに迫害する気もなければ、大々的にキリスト教排斥運動をする気もありません。もし友人が洗礼を受けると宣言しても、「あ、そう」程度でしょう。賛成もしなければ反対もしません。これには理由があります。分かりやすい理由は、キリスト教に無関心だと言うことです。彼らがどこで石につまずいて転ぼうが、私の知ったことではありません。私の脳空間のかけらも占めていません。

でも実はもっと強い理由があります。それは、間違っても使徒パウロの轍を踏みたくないと言うことです。使徒パウロは初めのころ、純粋なユダヤ教徒としてキリスト教を、先頭を切って迫害していました。キリスト教徒を心から憎んでおり、実際彼らの何人かを殺したと言われています。

## 瞑想録（そのプレ）

そしてここまで徹底して憎んでいたからこそ、彼はダマスコに行く途中でイエスによって捕らえられ、逆にイエスの一番弟子として採用されてしまいました。そこには「今まであれほど憎んだことの後悔の念から、こいつを物にすれば馬車馬のように働くだろ」と言うイエスさんの深い読みがもちろんあったと思います。イエスさんは預言者です。

だから私は、使徒パウロを他山の石、反面教師として、うっかりイエスさんに取りられないようにほどほどに嫌うことにしています。これも相手の術中に落ちないための工夫です。これはヨガの悟りでもあります、のらりくらりとしていて何物にもならない方がより危険に遭いにくいのです。

更に中国の陰陽道の立場からは使徒パウロは徹底しすぎて、陰極まって陽になってしまったとも言えます。だから私は極まらないように八分目のところで寸止めしているわけです。パウロの二の舞はするまい。私は単に自分が信じる東洋の道に忠実なだけです。毎朝起きて太陽を拝むのと同様です。

### 4、宗教混合と創発性

PID制御という制御方式がある。典型的な古典制御方式である。目標値と現状値の乖離を補正するのに、乖離の比例量(P)を使っただけでは収束が遅いので、履歴から積分値(I)及び微分値(D)を算出し、これらの値も混ぜ合わせることで、速やかに収束させようとする制御方式である。

この制御方式、具体的にはこれらP・I・Dの値の混ぜ合わせ具合によって色々なバリエーションがある。混ぜ方が悪いとやはりなかなか収束しなかったり、逆に大きく振動したりする。

ではこの制御方式は創発的であろうか？ Pに対してIやDを混ぜるという行為には何の根拠もない。根拠がないと言うことは、言いかえればより一般的な法則から自動的に導き出せるものではないということだから、「IDを混ぜる」という行為は知恵による付加価値、純粋にオリジナルであって、人の英知の働きと言うことになる。

だが、「Pで足りなければIやDを取り交ぜよう」と言うのは、理系の心得があれば誰でも思いつくことでもある。この意味で、PID制御は創発的ではあるものの、その程度は低いと言える。



## 瞑想録（そのプレ）

似た例に乱流モデルがある。数値流体力学において、離散化した結果解析メッシュの幅以下に落ちてしまう微小な渦、つまり乱流の取り扱いが精度を左右することが知られている。そこで何らかのモデルを立てるわけだが、そもそもこの乱流の発生の元は、解析解の存在しない程の複雑な非線形項である。

この非線形項をモデル化するのに、現状のモデルで使われているのは高々三角関数程度、高校生の数学程度である。であるから、乱流モデルも一応創発的ではあるものの、そのレベルは極めて低い例である。

次の例として多変量解析を挙げる。統計解析の一部門である。今主流なのは主成分分析、これは多次元空間上の点の分布を、その分布が見やすいように座標軸を回転するだけで点の分布は変えない。この意味でこの分析法は恣意が入る恐れはないが、その一方で結果は当たり前でしかなく、大抵しばしばつまらない。

これに対し似た目的で因子分析と言う方法があって、心理学とか医学で多用されるが、こちらは点の分布もその特徴が目立つように変形する。先の主成分分析が実写画であるのに対し、因子分析は言わばデフォルメ絵画である。似顔絵のようなものだ。しばしば本物より本物らしいが、その意味で高度に創発的であるが、しかしその代わり恣意性が入る恐れはある。

このように、法則的とは良いことであるが他方で当たり前でつまらなく、一方法則を外れることは良いこととはされていない、せいぜい必要悪であるものの、そこに創発性があり智恵が働いている。ただしその智恵とは往々にして雑多な雑学的な知恵であると総括できる。ここに智恵 vs. 法則の悩ましい関係がある。

では、日本語は中国から漢字を輸入しながらも、独自の工夫を加えて新規な発展を遂げた。これは良いことか悪いことか。例えば重箱読みのような音訓混合、これは見方によっては不純であるが、別の見方をすれば新機軸であると言える。日本語を豊かと思えば良いことだし、過剰な冗長性を持つと思えば悪いことである。

最後に神仏習合の例。一神教から見ればこれは忌むべき宗教混合、異端中の異端であるが、現に日本の精神的支柱である修験道、これは世界の最終宗教であり、創発性は最高にある。ただしその理論は当然に矛盾をも内包した多様体である。そして日本人はむしろ、矛盾があるからこそ感動するのだ。ここにこそ法則 vs. 創発性の善し悪し判断の極みを見るようである。

## 瞑想録（そのプレ）

なお、一般的に近似と言う行為、創発性があり、柔軟性があり、かつ役に立つものの、その創発性は一般に低いことが多い。偉いセンサーがあまり近似に手を染めないのも、その品格にあるようだ。

### 5、私の恍惚体験

私はかつて若いころ、宗教的恍惚、いわゆるエクスタシーの体験をしたことがあります。

それは変哲もないある日のあるとき、それまで特に集中することもなく何となくぼっとしていたのですが、何のきっかけか「気」が頭の方に集中してきて、周囲の窓や部屋や戸が歪んで溶けて見え出し、かつ光り始め、心の中が言いようもない喜びに満たされ始めました。心臓がドキドキ鳴り始めます。

その感情はどんどん強くなり、かつ体中から湧きあがってきて、毛穴は総毛立ち、顔の表情が弛緩してあたかもダウン症の人あるいはギリシャ彫刻のアーケイックスマイルのようになり、よだれ垂れ放題、両目は焦点がずれて上目遣いになり頭のとっぺんを見ているかのようです。すっぱいものを食った時のように頬と口がずぼんで、舌が出ています。

やがて耳がガンガン鳴りだし、体中が光に満ち溢れて眩しすぎるほどになり、視界の前はあたかも波々ガラスを通して物を見るかのように歪んでとろけて不定型になっています。更に頭の頂上と両目の間、いわゆるチャクラがぶるぶると震え始めました。体は自然にヨガのポーズを取っています。「天上天下唯我独尊」という声が聞こえました。

こんな恍惚の状態が10分も続いたでしょうか、今度は段々収まってきて、遅く始まった状態から先にほどけていき、最後にすべて沈静化しました。ただチャクラだけは最高時ほどではないものの存在を主張し続けていました。

まあざっとこんな感じです。おそらくあれが、ほとんどの宗教が存在を主張する「恍惚体験」「法悦の境地」でしょう。この感覚は体験した人でないと本当のところは分からない、文字では伝わらないものです。本当はこの体験のない人が教師と称して宗教を語ってはならないものだと思います。宗教はキ教の組織神学に見られるような屁理屈の塊ではないのです。

## 6、続・教会物語

次郎さんは求道の志（こころざし）高く、洗礼を受けてから半年の新入会員だ。今も毎日曜日熱心に教会に通っている。今日も午前中に礼拝があった。讃美歌、牧師の説教、信徒の証し、讃美歌、連絡事項、そして祝福、占めて2時間である。

執事：それではこれで今日の礼拝を終わります。引き続き交わりの会があります。その後讃美歌の練習及び各種委員会があるので全員参加して下さい。特にバザーが近いので準備をお願いします。

次郎：牧師先生、相談があるのですが。

牧師：ああ次郎さん、毎主日熱心に来続けていますね。結構なことです。

次郎：それが最近、なんだか疑問がわいているのですが。こうして礼拝に出ても何かむなしいのです。

牧師：ほう、何でしょう。

次郎：お決まりの説教と讃美歌、その後交わりと称して幼稚なゲームとおよそ意味のない委員会、本当にこんなことをやっていて精神が高まるのでしょうか。

牧師：もちろんです。現に執事クラスの信仰はかなり深いです。それに大切なのは精神鍛錬ではなく救い、主による救いです。

次郎：仮にそうだとすると、牧師さんの説教、失礼かもしれませんが聖書をネタに書誌学をやって屁理屈をこねまわしているだけで、雑学にしか聞こえないのですが。心が躍りません。

牧師：変ですねえ。いつも言っているのですが、聖書は神の靈感によって書かれた揺るぎのない規範、私たちの魂の拠り所です。聖書なくして信仰なしです。

次郎：私はイエス様の行動による教えに感動して入信したのですが、先生の平板な説教はもちろん、同じような讃美歌、「信徒の証し」と言う名の愚痴、交わりと称した単なる茶話会や幼稚なビンゴゲーム等、更には要らない仕事をわざわざ作っているかのような委員会、本当に必要なのでしょうか。

牧師：もちろん必要です。どこの教会でもやっていることです。ですからうちでもやります。第一バザーや伝道集会があったからこそ、あなたもこの教会を知るに至ったのでしょ



## 瞑想録（そのプレ）

次郎：私は、平日は仕事でへとへとです。せめて土日くらい休みたい、自由なことをしたいのに、こうして日曜日が丸一日つぶされてしまう、はっきり言って今の教会活動にそれほどの価値があるとは思えません。

牧師：俗世間への思いがまだ残っているように思えます。それは信仰の妨げです。今すぐ断ち切りなさい。

次郎：それにヤスクニ勉強会とか反原発集会とか、あれ何ですか。なぜ政治が信仰に混じっているのでしょうか。

牧師：あなたは今イエス様に習いたいと言いました。だったら分かるでしょう。イエス様も宮清めなど政治活動をしました。信仰を守る、群れを守るにはそういう活動も重要です。

次郎：私が求めている境地と違うように思います。信仰の名のもとに単に政治活動の兵隊をやらされているに過ぎなく思います。もしかしてこの教会、「社会派」とかいう左翼連中に乗っ取られていませんか。

牧師：シー、声がでかい。そう言うことを聞かれましたらまずいのですよ。この教会に長居したかったらその話はやめなさい。

次郎：それに献金の行く先を見たのですが、その手の社会派の地下組織に何気に結構なお金を援助していますね。それって純粋な気持ちでお金を捧げている信徒の人々への裏切りではないですか。

牧師：シーシー、声がでかいちゅうだ。必要悪なのだって。「下がれ、サタン」と言いますよ。

次郎：それに青年会、あの青年会長が若造のくせに変に威張っていて、手下にならないと公然と仲間外れをやっているのをご存知ですか。

牧師：ああ、あの人は宗派全体の連合青年会長だから力があってね。私だって逆らうと首が危ない……。ああ、いや、その、青年会のことは青年会の自治に任せてありますから、そちらでやってください。

次郎：なんだ、牧師も先生とかイエス様の代理人とか言いながら、実際は単に右顧左眄いるだけの俗人か。これじゃあだめなわけだわ。聖書にはイエス様が奇跡をしたり、使徒パウロが異言をしたりしています。どうして牧師さん、あなたはしないのですか。出来ないから屁理屈の説教でごまかしているのではないですか。

牧師：奇跡や異言はもう過ぎ去ったものです。今は組織神学と講解説教の時代です。

## 瞑想録（そのプレ）

次郎：聖書のどこにそんなことが書いてあるのですか。「すべては聖書が根拠」ではないのですか。

牧師：いや、建て前はそうなのですが……。奇跡や異言は禁止、宗派総会でそう決まっています。

次郎：奇跡や異言もない上辺だけの屁理屈でごまかした中見空っぽの下らない「集会」、もう良いです。

牧師：もう来ないのですか、イエス様が悲しみますよ。

次郎：イエス様を座敷牢に入れて下らないことにうつづを抜かしているのはあんたたちでしょう。茶番と裸の王様はもう良いです。さようなら。

こうして次郎さんの短い教会生活は終わった。そして短くて幸せだったかもしれない。この次はもっと長居してしまった三郎さんの話を紹介したい。

## 7、宗教の生と死

何年か前の大河ドラマ「功名ヶ辻」で、関ヶ原前夜の場面。松江城主となった中村一氏（田村亮）がかつての同僚の山内一豊（上川隆也）に苦しい胸の内を打ち明ける。一氏は豊臣恩顧でありながらいち早く東軍（徳川家康）に与することを表明していた。そして一氏は言う、「許してくれ一豊、お家を潰すことは出来んのだ。」

個人よりもお家大事・名誉大事のこの時代、ましてや一国一城の主でかじ取りを誤れば多くの臣下を路頭に迷わすことになる。たとえトップとはいえ、一氏の悩みと判断はむしろ当然と言えよう。ところがこの「集団の原理」が、実は戦国武将のみでなく宗教の必然的に進む道であり、しかも新興宗教でも例外でないという意味では現代にも適用できる原理なのだ。

宗教は一般に、特別な能力を持った開祖の個人的なカリスマと魅力で始まる。それは病を癒す力であったり、干ばつに雨を降らす能力であったりする。それに圧倒的なコトバ、予言が加わる。そしてことさらに集めようとしなくても、信者が自然と集まってきて教団を形成し、どんどん大きくなっていく。

天理教然り、大本教然り、真光教然り、金光教然り、創価学会然り、立正佼成会然り、真如苑然り等々だ。最近ではマクヤ教会然り、そして幸福の科学もいずれ同じ道を辿るだろう。

## 瞑想録（そのプレ）

どういうからくりかと言うと、奇跡も行えるこれら開祖だが、なぜか不死身と言う訳にはいかないのだ。いずれ必ず死ぬ。そしてカリスマ性はルイセンコ説に反して遺伝しない。必然的にごく普通の息子が跡を継いだり、長老たちの集団指導体制になったりする。

思い起こせば新興宗教に限らず、今は世界宗教となっているキリスト教やイスラム教、そして東洋の仏教だってその初期ではそうだった。これら初期の時代の宗教集団の特徴は、カリスマ開祖が死んだ時点でその集団は解散しまうのが一番健全であるものを、どうしても解散せずに何とか存続するほうにもっていくことだ。

まあ、開祖が死んで間もなくは信徒たちが開祖の思い出に生き続けるだろうが、それも次第に代替わりして、3代目くらいになると開祖の足跡も書き物でしか知られなくなる。そしてその頃になると、ある意味開祖はそっちのけで集団と言う多分に世俗のコミュニティが出来上がっており、その信徒たちは他の何よりもそのコミュニティへの帰属による利益を逸失したくないがためにその教団の引き続きの存続を願うようになる。

もはや開祖の言葉などちょっとした「刺身の端(つま)」でしかなく、多分にその世俗集団が生き残るための根拠づけとして強引に都合良く利用されているだけの状態になるのだが、それでももはやそのコミュニティを潰せない。自らが自己保存・自己増殖を図る摩訶不思議な生命体へと「進化」を遂げてしまっているのだ。

まさに「お家は潰せない」のである。開祖はそのカリスマ性ゆえに、生前はかなり激しい言葉も吐いていたりするのだが、そのころには良くも悪くも反社会的な要素は消し去られ忘れ去られて、大衆や公序良俗に迎合するものになっている。キリストの言葉も、ムハンマドの言葉も、そして日蓮の言葉も例外ではない。

ここに宗教の生から死に至るまでの蓋然法則を見ることができる。今も昔も変わらない。強いて言えば、一度死んだあとどう別の形で復活できるかが、宗教の体裁を保てるかの分かれ目であろう。

## 8、地頭(じあたま)力

地頭力(じあたまりょく)と言う言葉がある。〇〇力と言うと最近では「鈍感力」とか「老人力」とか人を食ったような造語が多いが、これはまともな言葉である。いわゆる詰め込

## 瞑想録（そのプレ）

みの知識の豊富さとは正反対に、思いつき、知恵、機転の鋭さ豊かさを指す言葉で、最近入社試験などで良く用いられている。「1を聞いて10を知るのではなく、0から1を生み出す能力だ」とも言われる。

良くある問題に「日本中に電柱は何本あるか」や「日本中に郵便ポストはいくつあるか」がある。いずれも正解に近いかな否かよりも、導出にどういう知恵を用いたかで回答の質を評価する。

ある大学のオープンキャンパスでこの手の地頭問題に遭遇したことがある。問題は：

1、地球上の人間を全部詰め込むと何立方メートルになるか。

2、今まで人類が使った石油は富士山何杯分くらいか。

であった。

私の答えは問い1については、人1人は1立方メートル弱、人類の数は10億人強だから、掛け合わせて一声1立方km程度。

問い2はもう少し複雑で、富士山の高さは約3km、勾配が20度として底面の半径は約10km、すると体積は約300立方km。人の延べ数は約10億人が100年使ったとして1兆人年。1人1日当たり車に1リットル、エネルギーに1リットル、プラスチックに1リットルとして合計3リットル。1年間で千リットル＝1立方メートル。掛けて総計で1兆立方メートル＝千立方km。これを300立方kmで割って、富士山約3杯分という答えになった。どちらもオーダー程度だ。

教師によると正解は問い1が1立方km程度、問い2が富士山3杯半位とのことだったので、私の見積もりは「比較的近いかな」と言うところでした。

ここで、正解にしても予測にしても、私のそれ以前の素朴な感覚よりも意外と少ないのに驚きました。JRの駅の間は平均5kmですから、この5分の1を一辺とした立方体、「高々1立方kmの人々が富士山3杯半の液体を取り合ってときには武力抗争にまで及ぶ」と、この問題を出した教師はそのみみっちさ、愚かさを言いたかったのでしょう。

## 9、ポケモンと元素

ポケモンと言うゲームのキャラ、想像上の生き物集団がある。10年強前に最初の一群約100匹が「発生」し、今は代替わりを重ねて約650匹も居る。私も初代ポケモンのころはニンテンドーのゲームボーイでバトルをして、何度もポケモンの殿堂入りをし

## 瞑想録（そのプレ）

たものだ。イマクニが歌う「ピカチュウ・カイリユー・ヤドラン・ピジョン・・・」という、ポケモンの名前を連呼するだけの歌も歌えた。

私はそれ以後引退したが、娘の方はしっかり全部フォローしていて、650匹のポケモンの名前はもちろのこと、タイプ、属性、得意技等全部そらんじていて、聞けば立ちどころに答えが返ってくる。TVの「ポケモンサンデー」を見ていて、「繰り出した技が○の方が良かった」などとプロのバトルーに対して指導と評論までするほどだ。

そこでふと思ったのだが、元素、物理や化学で習うもので高々100種類、高校生で覚えるのは20～30くらいか、覚える歌もあって「水兵リーベ（恋人）僕の船、ソー曲がるシップスクラーク

（船員）・・・」と言うのだが、それだけでも娘はついに覚えずに卒業した。そこで不思議に思うのだが、650個のポケモンは完璧で高々30の元素はなぜだめなのだろう。

単に情報量と言うのなら元素の方が10分の1以下だ。それにポケモンにはタイプがあると言うのなら元素にだって「アルカリ金属」から「ハロゲン」まで、同様の系統がある。だから人が覚える・覚えなないは、単純に客観的な情報量の多寡ではないということだ。そもそも多寡だけだったら、「元素の歌」だって情報量を増やしている側だ。

だから覚える・覚えなないはむしろ、面白いかつまらないか、物語があるかないか、と言ったどちらかと言うと主観的な属性により依存していることが分かる。主観的情報量と言うか主観的メンタルワークロードは、650個のポケモンの方が30個の元素よりよっぽど軽いのだ。ここに物理学者には摩訶不思議な、主観的アナログ情報量の世界がある。

## 10、使徒パウロの「勇気」

大河ドラマの引用から始めます。大河は典型的な大衆娯楽ですが、だからこそ日本人の隅々にまで行き渡った心構えを典型的に見て取ることができます。今日の大河は20年ほど前の「独眼竜政宗」（渡辺謙主演）です。

米沢で家督を継いだ政宗は会津の芦名を攻めますが、押し返されてしまいます。初陣なこともありなおも意地を張って攻め進めようとする政宗に、軍師の片倉小十郎（西郷輝彦）は、「負けると知ってなおも突き進む、これが匹夫の勇にあらずしてなんぞや」と体を張って諫めます。ここで「匹夫の勇」とは「愚か者の思慮のないつまらない勇気」の意味です。

使徒パウロについては、彼はキリスト教の実質的な開祖ではあるものの、イエスの足跡、特に頓知や奇跡は全く理解できずに、宗教的には低レベルの修身や道徳にすり替えて全く逆方向にしてしまった、実は改ざん者である事は何度も説明してきました。

本日はそのパウロがそのようなことしかできなかった、如何に単細胞で白痴のような人間であったかを端的に示す行為として、3度にわたる伝道旅行を取り上げてみます。ちなみにこれらの伝道旅行は伝統的キリスト教では、パウロの深い愛を如実に示す、信徒の皆が見習うべき見本として高く称賛されています。かつて米国のブッシュ大統領がイラク侵攻を決意した時も、このパウロが背景にあったと言われています。

そのパウロの3回の伝道旅行、いずれも準備も勝算も全くなく、単に熱意のみで強引に出かけ、時には難破したり、また時には迫害を受けたりもしています。この自分の命を惜しまない態度が立派だと言う訳です。欧米的単純思考からはそうなるのかもしれませんが、思慮深い東洋哲学から見ればこれは、ドンキホーテ顔負けの一人の相撲、滑稽な行いとは思えません。

しかももしパウロが本当にイエスさんの教えを伝えようとして難破等したならば、あるいはまだ許せる余地はあるでしょう。でも仮に彼が伝えたのが実は改ざんされた彼自身の教えだったとしたらどうでしょうか。これはもう愚かな、見てくれの独善以外の何物でもありません。

そしてこのような愚かな行為が「立派」と言う社会評価を受けているために、米国は近所迷惑な正義の押し売りをいくらでも繰り返すのだと言えます。

### 11、創発性の高い気づき

以前に科学技術と創発性を見た時に、PID制御や乱流モデル、更には近似法一般を見渡して、「創発性はあるもののその程度は低い場合が多い」と評価しました。やはり科学技術は絶対再現性を前提にしているので、言わば当たり前のことしかできないと言う大きな縛りがあり、これが魂の自由な飛翔であるところの創発性とは相いれにくいと言うことかと思えます。

では科学技術に拘らずに、創発性の高い気づきには具体的にどんなものがあるでしょう。当然に確定論理ではなく蓋然論理になります。創発性の高い気づきは歴史、特に戦略に多く見出せるようです。



## 瞑想録（そのプレ）

例えば川越の夜戦、それまでの戦は名乗り合いから初めて和歌の交換もすると言った優雅なしきたりがありましたが、戦国武将の北条氏康はこれを全く無視して突撃を敢行し、しかも勝つことだけに専念して打ち取った相手の首を持ちかえることも無用としました。これは当時の常識から見れば野蛮極まりない非礼な行為ですが、現に勝つてしまえば誰も文句は言えません。

続いて長篠の戦、ここで織田信長は鉄砲を導入することにより、寄せ集めの雑兵を用いて武田の百戦錬磨の武将集団「赤備え」を壊滅しました。ここでも「勝てば何でもあり」で、鉄砲の潜在力に気付いた信長の高い創発性の勝利でした。

時代は下って日露戦争、騎馬隊長の秋山好古は、騎馬隊に重火器を持ちこむと言う奇策で、当時最強無敵と言われたロシアのコサック兵団を打ち破っています。それまでは騎兵は騎兵同志という不文律がありましたが、それに捕らわれなかったわけです。重火器がなければ北の氷雪の慣れない地でコサックを負かすことは不可能だったでしょう。

海軍では参謀の秋山真之が立案した東郷平八郎のいわゆる「U字ターン」、肉を切らせて骨を切る作戦です。連合艦隊がU字ターンを始めた時、バルチック艦隊のロジェストウェンスキー提督は「東郷は気が狂った」と大笑いしたそうですが、結果は連合艦隊の大勝利でした。

もっと最近だとイスラエルの人質救出のエンテベ作戦、イスラエル軍のコマンド部隊が夜陰にまぎれて数千キロ離れたウガンダのエンテベ空港を襲撃して、ほとんど被害なく人質のほとんどを奪回しました。当時ウガンダでは、イスラエルが直接攻めてくるなどとは全くの想定外でした。これも創発性が高いです。

いずれの場合も常識破りあるいは慣例破りでしたが、創発性さえ高ければ評価は実績の後に付いてくることを物語っています。

まあ、学芸の科学技術と国の存亡をかけた軍事では、真剣度がまるで違うと言うことでしょう。

## 12、悟りと虚栄心

## 瞑想録（そのプレ）

悟りは欧米の一神教にはない、東洋独特の高い哲学・宗教だが、他方で世間体とか虚栄心とかも、欧米よりは東洋ではるかに強い。そしてこちらは良くない心である。ではこれらに何か関連性があるのだろうか。悟りも世間体もデジタルと言うか個人主義ではあまりないと言う共通点があるが、単にそれだけだろうか、それとももっと根っこでつながっているのであろうか。

悟りを得るのは基本的に個人単位であるが、実は慈悲のない悟りと言うのは仮にあるとしてもニセの悟り、低い悟りである。オーム真理教の麻原彰晃がその好例だ。仏あるいは大いなるものと結びついた本物の悟りは、同時に慈悲でもある。そして慈悲とは、回りの人々及び衆生一切を思いやる、高度にアナログな心である。

ところが悟りは余りに高度な心の状態なので、全員が至れるわけではない、と言うかなれない人の方が多い。で、悟りに至れなかった人々の心はどうなるかと言うと、しばしば慈悲がないと指弾されるのを恐れて、勢い慈悲があるふり、心の広いふりをするようになる。「小人は面を革む(あらたむ)」と言うわけだ。ところが実はないのであるから、慈悲をする分だけ疲れると言うか損をするようになる。

この損が凡人にとっては耐えられない。そこで世間体を繕って慈悲がある最低限のふりをするとか、さらには虚栄心で自分をごまかして自分に嘘をついて回りに威張ることにより、慈悲で損した分をどこか別の所で取り返したい気になる。取り返さないと気が済まなくなるのだ。

総じて世間体や虚栄心は、悟りの隣にありながらも、返って悟りや慈悲の妨げとなる煩悩の塊、人間の悪しき本能がギラギラ光った餓鬼道にも落ちる行為なのである。「自分はまだ悟っていません」と正直に告白することすらできないでいるのだ。

もしあなたが虚栄の親に生まれたら、縁を切りなさい。あなたの命すら施餓鬼道に引きずり込まれるかもしれない。虚栄、虚飾とはそれほど危険なものだ。

## 13、朝青龍と白鵬

横綱白鵬と元横綱朝青龍、どちらもモンゴル出身でいずれも強い関取だ。共通点も多いが、相撲の取り方はむしろ対照的である。白鵬は相撲の型と言うか決まり手、寄り切りとか上手投げとかそういういわゆる48手をわきまえた正統派の相撲で行儀が良い。性格の良さ、まじめさが相撲にも表れている。少々面白さや野性味に欠けるくらいはあるが、この人は天才と言うより秀才タイプだ。

## 瞑想録（そのプレ）

かたや朝青龍、稽古で型は一応習ったのだろうが、土俵の上では型に捕らわれていない、と言うか型は一切無視で、生まれつきの天才的な反射神経と運動神経で相撲を取っている。だから彼はむちゃくちゃ強いけど、勝ち方は何でもあり。それこそ「けたぐり」だって「さば折り」だってやっちゃう。土俵の上で暴れては居るけれど、本当に相撲と言うものを取っているのか疑問だ。勝つけど品は感じられない。決まり手も結果を見て審判部長が何とかひねり出している感じだ。

つまり白鵬は決まり手と言う「言葉」をわきまえている点で多少デジタル、他方の朝青龍はまるっきりアナログなのだ。白鵬と朝青龍の対戦成績は朝青龍が勝っていたが、これが言葉に頼らない本能の野生児の、アニミズム的強さである。戦国時代の梟雄（きょうゆう）、斉藤道三とか北条早雲とかもこういうタイプだったのだろう。現代人だと小沢一郎とか佐藤優とかがこのタイプだと思われる。

究極すれば型はカニの殻のようなもので、あるところまでは自分を守ってくれるが、それ以上になると自分を閉じ込める制限となってしまう。では型は全く無意味かと言うと、日本で「道」と付くものにはすべてに型があることから分かるように、型は極めて重要なのだ。形式主義に陥らない限り、型と心は表裏一体、あらゆる道はそう教えている。

「国家の品格」でベストセラーとなった数学者・教育者の藤原正彦先生も、「品格を学ぶには計数でなく型から入れ」と、型の重要さを説いている。もっともこの言葉、藤原先生は数学者としての自分を否定しているようにも聞こえるのだが。

ところで分野は異なって将棋だが、やはり天才で7冠を達成した羽生善治さん、この人の将棋は天才の打ち方でありながら品がある。同じ天才なのに朝青龍とどこが違うのだろうか。思うに、朝青龍は自分から獐猛に取りに行っているところ、羽生さんはむしろ棋面の流れに身を任せて、言わば棋面に打たせている。この能動性と良い意味での受動性が、品のあるなしを分けているようだ。

## 14、5次方程式

4次以下の代数方程式は代数的に、つまり加減乗除とベキ根のみを有限回行うに限定した方法で一般解が存在して解けることが分かっている。ちなみに4次方程式の解法を導出した人の一人は、イスラム人で詩人としての方が有名な、ルバイヤート(4行詩)の作者のウマル・ハイヤーム(テント張りのウマル)である。

## 瞑想録（そのプレ）

他方5次以上の代数方程式については、代数学の基本定理により複素数の範囲で解を有することは分かっている一方、これを先に述べたような代数的な有限回の手続きでは一般的には解き得ないことが証明されている。簡単に言えば解の交代群の可解列が可解でないのだ。

真正数学者は証明のイメージ化を嫌う。「単なる一モデルに過ぎない」と言うのが理由だ。どこまでも確定論理の抽象的な羅列でなくてはならない。ところが幸い私は数学者ではないので、縛りなく、また異端審問も魔女狩りも破門されずにこれがどんなイメージになっているかを語ることができる。

実際5年ほど前にそのイメージを記した：<http://blogs.yahoo.co.jp/oseh13/40424994.html> 要するに根を開こうとしても「三つ巴」になっていて開けないのだ。ガロアの群論の偉大な成果である。

さて、今回は前回の話を繰り返すのはやめて、代数方程式について3点ほど補足的な注意をしておこう。

第1に「5次以上の方程式は代数的には解けない」とはあくまでも一般的な結論であって、「運よく」解ける場合も、測度零ではあろうが、ある。ではこの解ける特別な場合は解の交代群の可解列がどう「軟化」するのだろうか、と思うのは自然だが、答えは「変わらない」だ。つまり可解列の構成に具体的な係数の分布は一切考慮されていない。だから変わらない。言い換えれば、係数のどういう特殊な組み合わせの場合に5次以上の方程式であっても代数的に解けるのか、見出す方法はない。

第2に、とある天才か予言者が居て、超能力や眼力により解の一つを代数的な表示で見つけることができたとしたら、これをきっかけに「三すくみ」はほどけて、残りの解は代数的に導出できるということだ。自分に超能力があると思う進んだ未来志向の人、チャレンジしてみないか。

第3に、この輝かしい偉大な成果は、あくまでも代数方程式の場合しか適用できないということだ。式の一部に三角関数や対数関数などが入っていたら、工学の応用の世界ではこういう式の方がむしろ多いのだが、融通なく全く何も言えなくなる。前提となる代数学の基本定理が働かないので、根の存在を保証できないからだ。

これなど義務教育の幾何で、円や三角形の諸定理や、補助線を引いての解法が、大

変エレガントで美しくはあるものの、ちょっと楕円や四角形に変形しただけで全く無力になってしまう箱庭の世界であることと良く似ている。

### 15、続3・教会物語

三郎さんは教会歴5年のベテランである。今日も日曜日なので教会に礼拝に行った。三郎さんは実は今日は牧師に相談があるのです。で、礼拝後。

三郎：牧師先生、実は親戚から借金を頼まれて困っているのですけど。

牧師：困る、どうしてでしょう。あなたはもう長い間私の説教を聞いているはずですが。

三郎：そうなのですが、うちも余裕がないのですよ。娘が大学受験の予定ですし、それ以外にも色々。

牧師：それは全部あなたの側の一方的な理由ではありませんか。

三郎：そうなのですが、その親戚実は態度が悪くて周りの鼻つまみなのです。

牧師：そう言う人々こそイエス様が求めている人々です。あなたは今まさに伝道のチャンスです。

三郎：まあ、理論的にはそうなるでしょうが…。

牧師：理論とかいう以前にあなたの信仰が試されています。行って施しなさい。

牧師の指示に従って三郎さんはその親戚に多額の生活費を貸し与えた。その結果娘の進学費用がなくなって娘はやむなく就職し、嫁さまは働きに出ることになった。

その後しばらくしてその親戚の「生活にも事欠く」はウソで、実は借りた金で家族総出の海外旅行を楽しんでいたことが分かった。怒った三郎さんが返済を要求したが、「それでもキリスト教徒か」と、返って怒鳴り返された。

この事実を知った娘と嫁さまは、三郎さんに愛想を尽かして出て行ってしまった。三郎さんは家庭崩壊の上孤独の身となってしまった。

三郎：牧師先生、お金は取られてしまいました。家族にも出ていかれました。

牧師：ハレルヤ！あなたは最後までイエス様の教えに従いました。天国に宝を積んだのです。そしてその親戚の頭の上に燃える薪を積みました。その親戚への伝道はあともう一歩です。



## 瞑想録（そのプレ）

三郎：でも私は一文なしの上に孤独になってしまったのですよ。とても悲しいです。

牧師：イエス様は何でもご存知です。さあ、一緒に祈りましょう。イエス様に重荷をおろしましょう。さあ、もうあなたの重荷はありません。

三郎：正直言ってすっきりしないのですけど。現に何の問題も解決されていません。

牧師：解決しないことにハレルヤ！もし解決したらあなたの信仰は深まりません。これはあなたの信仰が深まるようにイエス様が用意されてくださったことなのです。主にあって喜びなさい。

三郎：喜べって、なんでうれしくもないのに喜べるのですか。はっきり言って疑問です。

牧師：それは聖書に喜べと書いてあるからです。聖書は絶対です。聖書信仰ここにありです。

今度こそ三郎さんの心は晴れなかった。それどころか疑問と不信の黒雲がむくむくときわまってきた。「自分の信仰とは、教会とは、聖書とは、牧師とは一体何だったのだ」、今まで理屈で抑圧してきた心のつかえ棒が一気にボキッと折れた音が聞こえた。もうダメだ、三郎さんはすっと立ち上がった。

そして祭壇に駆け上がると牧師の顔に往復ビンタを食らわし、おおおと叫びながら近くにあった棍棒を握ると、聖書から十字架からその他一切をすべてたたきのめしてぶち壊すと、「もうふざけんじゃない」と大声で叫んで走って立ち去った。そして2度と教会には戻ってこなかった。

1月ほど後、スラム街で一人の男性が自死しているのが発見された。遺書はなかった。その男は三郎さんに似ていたが、本人かどうかは誰も分からなかった。他方教会では何もなかったように、その日も平然と礼拝が行われていた。

2011. 08. 02まで(40まで)

## 16、連続体から見た離散値

量子力学の基礎表現にハイゼンベルク形式とシュレーディンガー形式の2形式があり、互いに同等であることは知られている。両者の違いは主として時間依存で、前者は演算子が時間依存、後者は被作用関数が時間依存になるのだが、より実際的には、前者は行列力学と言う代数表現になり、後者は波動力学と言う解析表現になるところに際立った「違い」がある。



## 瞑想録（そのプレ）

行列力学に於いて量子数は行列の固有値として表されるために必然的に離散値（整数）になる。つまり代数学の特徴として対称性の高い部分しかそもそも取り扱わないから、離散値になる理由は理解しやすいものの、では離散値以外のところはどうなっているのかを知るには全く無力である。

この点はシュレーディンガー形式で見ると分かりやすい。この形式に於いて固有関数は、「ガウスの超幾何関数」で無限級数展開されるが、量子数が整数の場合のみこの無限級数が途中で打ち切られて有限級数となるところ、それ以外の場合つまり端数がある場合は真の無限級数になり、しかもこれが無条件絶対発散なのである。

つまり、量子力学における固有値は、形式上は連続体、アナログであり得るものの、実質上はルベーグ測度0であるところの整数の場合のみ有限の意味のある値を採ると言う形で、離散値、デジタル化しているわけである。言わば強制的なデジタル化だ。

これをアナログ・デジタルの対立の立場からはどう見るべきであろう。この場合の離散値、デジタルは、アナログたる連続体の構成要素と言う位置づけではない。よってたまたまデジタルの、一種の極限的な部分集合と見なせば良いのではないか。

加えて上記の意味からは厳密に整数値しかとれないものの、実質的には同じ量子力学の結論である不確定性原理により、多少の揺らぎが出る。この揺らぎがデジタルな固有値に多少の幅を与えていてアナログ化していると言う面もある。

なお、似たような、代数の要請からは対称性の高い離散値の状態しか見られないものの、解析からの連続体的視点からはもっと深く様相を見ることが出来る見方の例には他に、対称分子の点群表現と面外振動の解析結果、あるいは5次以上の代数方程式が代数的に解けないことの群論による証明とその可視化などが挙げられる。

なお、アナログ集合論は典型的な離散点である整数の存在を否定しないし、矛盾もしない。「連続体は無限個の点の集まりであり、以上でも以下でもない」という従前の見方と異なる見方を提案していると言うことだ。「アナログの中に離散点がちりばめられて」いても、それ自体はそれで良いのです。

高名で正統派の数学者クロネッカーは、「整数は神が作った、あとの数は人が作った」と信仰告白しました。現代の数学者でこの信仰を共有する人は殆ど居ませんが、アナログ集合論はこの立場を支持します。

## 17、ささやかな余裕

私の知り合いに、俳句の才能がありながら仕事が忙しすぎて俳句に励めない人がいる。ちなみに仕事は鳶職、肉体労働だ。別に大学を出ているわけでもなく、俳句も誰に師事したわけでもないし、もちろん無名なのだが、その人の詠む俳句は気が効いていてうまい。でも仕事が忙しすぎてなかなか俳句を詠む余裕がない。ありていに言えば、食うだけで精いっぱいなのだ。

こういう人をどう考えたら良いのだろうか。何らかのきっかけで才能が認められれば、句集が売れるなどして好循環することもあるだろう。だが現状は食うに精いっぱいの悪循環だ。こういう状態がいつまで続くかも分からない。

私はこういう、食うだけで精いっぱいと言う状態は、もしその人に顕著な才能がなかったとしても好ましくない状態だと思う。人生を楽しむために働くべきなのに本末転倒している。人としての尊厳を傷つけられているのだ。政府の無策の一環であると思える。

では、他方に居る、素粒子物理学者などで、実験に天文学的なコストがかかるために、優秀でありながら本来の実力を持て余している人をどう考えたら良いのだろうか。冒頭に挙げた、食うに精いっぱいの人と同じく不当な制限を受けている人だろうか。私はそうは思わない。少なくともこちらの物理学者たちは人間の尊厳を傷つけられていない。どちらかと言うと飴を買ってもらえなくて駄々をこねている子供に近い。

例えば医学部、入試レベルが高い、入学金や授業料が高いと言う点のほかに、年齢制限があったり志望動機で振り分けられたりもする。一人を育てるコストが高いため、このように社会ニーズの高い職種であっても本人の熱意だけでは入学できないのだ。

あるいは戦闘機のパイロット、自衛隊でも花形職で、運動神経、反射神経、総合判断力など厳しく問われる。国防に必要とはいえやはりお高いものにかかわるからだ。戦闘機1機は約100億円である。

いわゆる優秀であるなしにかかわらず、人間だれしも100%満たされた状態はない。必ず、程度の差こそあれ、何らかの制限を受けている。大学教授だって授業と生徒指導は外せないし、究極すれば睡眠時間だって制限だ。だとするならば直ちに実験ができないのも睡眠と似た制限であると言える。これが理解できないとしたら、そのエリートは誤った特権意識に居る。

日本がもう至っている成熟社会、一億総貴族時代に於いては、仮にその目的が「高尚」であっても、「一番になる」とか「がつがつやる」はもう時代に逆行した害ですらあるのだ。「優雅に楽しく遊んで」、これがキーワードになる。2番どころか10番以下で良い。

## 18、現場力

私は学生のころから確信があって、やってみたら実際そうだったが、現場こそが宝の山、磨けば光る本当の原石は物作りの現場にこそあるのだ。学問の惰性的発展は放っておいても伸びるもので、現に現在進行形の、一見華やかに見える科学技術の発展も、実はほとんどが単に過去の延長上の、いわば予定されたものなのだが、その流れを変えるような原石は、大学や学会のような造られた温室にではなく、荒っぽい現場にあるのです。

但しそうは言っても、現場に居さえすれば誰でも原石に当たると言う訳ではない。第一に極めて効率が悪い。一生現場に居ても出会えないかもしれない。だから、ほどほどの成果で確実に偉くなりたいと言う程度の人、大学に残ることを勧める。自分をせいぜいかわいがりなさい。

第二に、それなりの原石は問題意識がないと見えてこない。実際現場に長く居ると分かるが、現場でコツコツまじめにやっている人々のほとんどは、単なる「現場たたき上げ」で終わる。現場たたき上げは、性格的には意固地で、頭の中は猥雑な雑学の塊であり、身分的には奴隷である。

では、たたき上げで終わらずに原石を見つけるための資質とは何か。それは品位と人格だ。現場管理とは一見関係なさそうに見える品位と人格、これらがあるとその人は現場に居ながら現場に埋もれずに済むのだ。そして原石を目ざとく見つけて、チャンス逃さず物にするのだ。

だから品位と人格を養うことは、実は暇人の余技ではなくて実利がある。もっとも実利を現に日々追っている人にとっては、人格を練るなど気が遠くなるほど遠回りの話であるから、下手にかかわらないことを勧める。ストレートに日々の浮利を追いなさい。

さて、私も品位や人格とは程遠い人間ではあるが、これらを目指してはいる。そして目指した結果私が得た原石は、「アナログ集合」と「蓋然論理」であった。これらについて

## 瞑想録（そのプレ）

は思索の結果を何十回も記事としてアップしているので、「またかよ」と感じる人も居るだろうが、現に物作りの現場に居て感じたのだが、工場はオートメ化されてほとんど無人なのに、なぜか社員が減らない。

そしてその根本原因は、デジタルな計数ものが極限まで発達したのに対し、アナログ的な言葉・ツールが未発達なせいだと感じたわけです。

そしてこれらの気付き、少なくとも自分にとっては、実は学生のころからもややもと感じていたもののなかなかつかみどころのない、フレーズにならないものであったところ、ちょうど50歳のころ、これら上記のキーワードに集約されました。まさに孔子様の言う通り、「40にして迷わず、50にして天命を知る」そのままであったわけです。

そしてこの時以降はこれらの集約されたキーワードに対する瞑想がライフワークと言うか趣味の一環になりました。瞑想の結果、テーマそのものはもとより、テーマを鏡として世の中一般の多くのことに気づかせてもらいました。ちょうど山元七平先生がユダヤ学を鏡にして日本学を極めたように、私もこれらのキーワードを鏡に、現状の数学や物理、あるいは科学技術一般、更には世の中の事象すべてについて多くの気付きを頂きました。そのいくつかはすでに記事にしてアップしてあります。

まだ本丸を落としてはいませんし、これら今までの気付きの全部が的を射ているとは思いませんが、これまでの気づきの記録のいくつでもが、少しでも人々のお役に立ってくれればと思う次第です。

### 19、現場はなぜ宝の山か

現場は宝の山だ。革新的アイデアや人生の疑問解決のヒントが、見る気になればこれでもかと転がっている。この点の詳細は昨日に記事にしたので、今回はなぜ現場は宝の山なのかを考えてみたい。

それは思うにおそらく、現場には例えば物作りと言った目的があり、そしてその目的とは、まさに現場であるがゆえに理論通りにやれば済むようなところでは到底なくてはるかに泥臭く矛盾さえしており、それでも強引にやり通す過程で、状況が従来にはなかった事物の新たな局面を剥いで見せることになるためであると考える。

## 瞑想録（そのプレ）

これはある意味、「無理が通れば道理が引っ込む」状況なのだ。実際は、古い道理が引っ込んで新しい道理、秩序が芽を出すということだが。この新しい秩序、あるいは秩序の芽を目ざとく見出して磨けば、これはしばしば新規ビジネスや新理論になる。

では、更に畳み返して聞くと、無理難題はしばしば正義で生産的と言うことであろうか。現場に居ると分かるが、正義かどうかとは別に、現実的にどうしても起こってしまう無理難題は必ずあり、これは困るもののうまく視点を帰って活かして使えばチャンスになるということだ。もちろん自我を通すための無理難題は基本的に非正義だが、これとてもしばしばチャンスに変えることができる。

例えば自分のせいでなく会社の成績が悪化して給料が減らされるのはピンチだが、それを克服するために新ビジネスを企業できたら、それはチャンスということになる。そしてその手柄は言うまでもなく、ピンチを起こした側でなく、ピンチをうまく逆転させて創意工夫した側にある。

さて、似たような状況に「下らない質問」がある。ブログでも的をついた良い質問・コメントは歓迎で、これに答えることにより自分も成長できるから価値が高いのだが、下らないコメントを入れられた時にどう対応するのが良いだろうか。

現実には無視する人が多いが、質問者の低い意図にもかかわらず、先の無理難題と似た状況で、その質問の中に、愚かな質問者の手柄には決してならないものの、あたかも禅の公案のごとく、答えることにより自分が成長できる場合があるのだ。そこに人生や世の中の難しさ、妙味がある。

ただし、「下らない質問」、これは実は最低ではない。そのもっと下に「不毛な質問」がある。ネット右翼の押し付けコメントが典型だが、この手の質問に答えることは、単に時間と能力の垂れ流しに過ぎない。相手にせずに削除するのが良い。

## 20、バンカラな時代

「バンカラ」と言う言葉があった。今の若い人はもう知らないかもしれない。ハイカラ（これも死語か）ならぬ野蛮なのでバンカラと言う。思えば良い時代だった。もちろん当時から未成年のたばこ酒は御法度だったのだが、実態は酒もたばこもやり放題、おまけに女郎屋通いなどと言うのもあって、殿方殿には天国だった。単に天国なだけではなく、そうやって男は成長して行った。



## 瞑想録（そのプレ）

私が未成年だった今から約40年前、さすがに女郎屋通いはなかったが、酒とたばこは普通にやっていた。大学に入っても授業などほとんど出ずに、昼間からクラブの部屋でたむろしていた。私なんぞそのおかげで鍛えられたと思う。まじめに授業など出していたら今頃専門バカの本当の資本家の奴隷だった。それでも推薦で大学院に行けちゃうのだから、いい加減なものだ。

ところが今は時代がずいぶんと違っている。酒もたばこも二十歳まではまじめにダメなのだ。数年前、ある売れっ子のユニットの未成年に酒を飲ませた女性TVアナウンサーが、ネットで批判されて、以後番組を干されて退社を余儀なくされたし、先日も高校野球の準優勝校が、部員の飲酒を理由に祝賀会を取りやめた。裏には情報筒抜けと言う有言無言の心理的脅威があろう。

もちろん法律解釈は時代とともに変化するし、厳密適用が建前なのであろうが、そのせいで社会が変に杓子定規になって融通が利かなくなり、それが若者の人間形成にまで影響しているのは、ちょっと行き過ぎではないかと思う。ここまでのしゃくし定規はさすがに法の予定していなかったことではないか。

この背景にはネット等IT技術の格段の進歩があるように思える。ネットの進歩により情報入手に係る費用がほとんどタダになった。これは、莫大な資金がないと能力があっても本が買えずに自己啓発ができなかったつい100年ほど前に比べれば格段の進歩であって、情報デバイドの差別に大きく貢献した。この手柄はどれだけほめてもほめ足りないほどだ。

だがどんな良いものでも裏返せば陰がある。ネット社会の飛躍した情報発信力は、どんなことでも隠さずに表面化させてしまう。そして人類は知らぬうちに言わば「ネット密告社会」を作ってしまったのではないか。密告社会と言えども、中国や北朝鮮等の共産主義国家の専売特許であるが、図らずもそれと似た事態が、自由な国でもネットのおかげで実現してしまったのである。

密告社会の人間は必然的に裏表のある、警戒心があって他人をたやすく信用せず、交わらない性格になる。この性格と、現代の杓子定規な社会の、決められたことはくそまじめにやるがそれだけで、目はうつろで、しばしばバーチャルな世界でやっと息抜きする現代の若者、何気に似てはいないか。

今や学校も会社も政治もどこもかしこも完全な減点主義で、人物が育たない構造になってしまっている。かつての坂本竜馬や山形有朋や田中角栄のような大人物はもう出



ようがない。小さな人間しか生み出せない不毛な時代の到来だ。自由に発言できるツールであるネットのせいで、返って自由にものが言えなくなっているという皮肉な事態。何とかしないと国が、人類が滅びてしまう。

## 21、ネトゲ廃人

「ネトゲ廃人」と言う言葉がある。ネットゲームにうつつを抜かして、働かないし勉強しない、何も生産しないでバーチャルな世界に引きこもる若者に対する蔑称である。実際はネットゲームに限らず、スタンドアロンのゲーム、アニメ、漫画等々サブカル物全般を指すのであろう。さらに「廃人」の意味を辞書で調べると、「傷害・疾病などのため通常の生活を営むことができない人」とある。つまり、もうダメになっているのである。

果たしてサブカルに浸るのは廃人の始まりであろうか。そう言う人も多いただろうが、他方でしばしば新機軸、いわゆる「外道」と言われる物も、注目される前は通常、その時代まだサブだった世界から出るものだ。その観点から見れば彼らはむしろ先駆者だ。もちろん実際に先駆となるのは彼らのごく一部だろうが、先駆とはそもそもそういうものだ。

では、何も生産していないから廃人なのか。逆に聞こう、何かを生産してさえすれば、その人は聖人なのか。欧米キリスト教的発想からすればそうであろう。かつて西欧の重要人物が訪日した際に、接待で京都の寺院に案内された折、座禅を組んでいる修行僧の一団を見て、「この若者たちは昼間から何を座ったままサボり腐っているのだ」と驚き軽蔑したと言う。

だが敢えて言おう、こういう偏狭な価値観しかないから今欧米は行き詰っているのだ。経済至上主義と馬車馬的労働観・人生観、こんなものの行きつく先が破滅でしかないことなんか東洋人なら子供でさえ分かる。

ではゲームをやっていて悟りとか何か内的な向上はあるのだろうか。内的向上もないとしたら、東洋的精神主義的立場からも肯定できないのではないか。競馬にうつつを抜かすおっさんからなにか高いものが生まれたであろうか。

日本人はもともと勤勉な民族である。ただ日本においても勤勉はそれ自体が目的ではなくて、むしろ心構えだ。そして人一人ひとりの究極の目標とは、その人がそれぞれ幸せになることではないか。だからネトゲで幸せになっても良いのではないか。

## 瞑想録（そのプレ）

ただ、ネトゲが本当の喜びかと聞かれれば、おそらく生涯の喜びとはならないだろう。だから彼らにもっと籠るのでない、外に出て伸び伸びするような開けた喜びがあるのだよと言うことを親切心から教えてあげるのは、意味があるかもしれない。その場合でもアドバイスを受け取るか否かは本人次第だが。

競馬等ギャンブル物にも、度を過ぎなければ、勝負勘を養うと言う重要な恩恵があって、例えば外国人と戦争や取引をする際に、心理的に勝負師根性を植え付けてくれて、蓋然的に主導権を握ることが出来るのだ。射幸的要素がけしからんと言うのなら、株の取引をするデイトレーダーだってけしからんことになる。

私は「ネトゲ＝廃人」と言う偏狭思考には賛成できない。世の中を生かし豊かにしているのは、余裕、無駄、怠け、異端等であって、これらのない社会は目先の効率が良いても早晩行き詰る。だから私は、「ネトゲは廃人ではない」と、人類の将来のために警告している。彼らの一部から高等遊民が出現して人類文明を転換させるであろう。

## 22、最初に無限があった

集合論は数学の中でも最も哲学的で、その依って立つところの哲学的背景を如実に示してくれる。言わば数学や科学技術は、実はその根っこにある哲学の、多分に単なる焼き直しに過ぎないのだ。で、現代の数論、1から始まって2, 3, 4・・・と行ってその極限として無限がある。

無限は極限であって数字ではない。さらに整数から有理数、無理数と拡張され、無限にも加算無限、連続無限等々の、濃度の違う、つまり全単射のありえない無限階層が無限にあることが知られている。さらに集合論であるが、集合とは元の寄せ集めである。元が更に集合の時もある。元の比較によって部分集合とか集合の意味とかがすべて決定される。

以上が現代数学の基礎部分の描像である。基本的にはそれ以上分解できない「アトム」があって、そのアトムの原則として有限個・有限回の組み合わせですべては成り立ち、かつその元の単純和でその集合の性格は完全に規定される。これは西欧哲学の基本原則そのものであって、その本質は完全な分析主義である。

この分析主義に基づいて進歩した科学技術は、その後医学や武器などで大いに成果を発揮し、欧米列強帝国主義の基礎を築き、グローバルスタンダードとなってきた。そして現代がある。

## 瞑想録（そのプレ）

私はもちろんこういう欧米の見方を否定するものではないが、ただ私にはいささか単純すぎるかに映るのだ。単純ゆえに直ちに役に立ったというのが、西欧哲学・科学の実態であろう。皮肉な結果である。で、神道やアニミズムをバックボーンとする私には、違うビジョンが見える。

最初に有ったのは0でも1でもなく、無限なのだ。無限は文字通り、数限りない物をその中に含んでいる。どれほど数限りないかという、1とか2とか、そういう有限個のものがこぼれ落ちてでも全く何も減らないほど懐が深いのだ。さらにこの無限について、西欧哲学式発想からは、「その無限とやらの元を全て列記せよ」という質問になるだろうが、この質問自体が愚かと言うか既に一定の思想を前提としているので、この質問に対する答えはない。ただ「有らんとしてある」のだ。

とは言っても無限がただ鎮座ましましていても、それが具体的にどういうものをうかがい知ることはできない。ここでは無限を「分割」することにより、その無限の内容をより具体的に知ることができる。

ただ注意すべきは、欧米哲学のように単純和ではないから、無限を割ることによってより具体的にはなるものの、それは割ることによってこぼれ落ちてしまうもの、より統合的な「完全化要素」「聖なるもの」、あるいは割った結果からみればそれらの相互作用に当たるものがこぼれ落ちると言う犠牲を払っているのである。だから無限を説明するとしばしば唇が寒くなる。原理的に言いつくせないのだ。

なお無限論では「アトム」という発想もないから、分析作業に「ここまで深ければここで打ち止めだよ」と言う時点もない。欲しければどこまでも深く割れる。だからこそ「どれだけ深ければ十分に深いか」と言う一種の割り切りが、用途に応じて、主観的に必要になる。

もし仮に西欧哲学的に「含む・含まない」を導入すると、これは一種の特殊化であるが、無限の割り方に、「自分を含む集合」と「自分を含まない集合」に割ると言うやり方がある。但しこれも割る以上は相互作用要素、もっと言えば「聖なるもの」がこぼれ落ちていることに注意すべきである。かつ、「全部」から始まっているので、「自分自身を含む集合」に特有のラッセルのパラドックスは起きない。

更に追加すると、全部であり始まりである無限、これは完全体をなして閉じているので、「同時に1である」と見ることもできる。「 $\infty = 1$ 」なのだ。これは「 $\infty = 3$ 」と記しても同じ

## 瞑想録（そのプレ）

ことで、こう書くとキリスト教の三位一体を表している。「神＝ $\infty$ ＝全知全能遍在」なのだ。ヨハネ書の「はじめに言葉ありき」、この言葉（ロゴス）とは全知全能の神のことであり、使徒パウロが来るまでキリスト教もまともだったことを示している。

「 $\infty$ ＝八百万」と見れば神道になる。言うまでもないが神道の世界は八百万の神々の単なる単純和ではなく、これら神々が複雑かつ有機的に織りなす、綾なる世界なのである。さらにアニミズムに帰れば、山にも岩にも滝にも、あらゆるものに魂が宿ると言う世界観そのものである。アニミズムで使う「あらゆるもの」、これこそが「始めに無限があった」の無限である。

### 23、風水は制限か

風水はもともと中国で形成された思想・美意識・占いの世界観であるが、日本にも土着して、陰陽道とともに人々、特に貴族階級の生活様式に多大な影響を与えた。方違えとかお日和とか、迷信と言えば迷信だが、人々の気持ちの素直な調和的反映でもあって、従うとたしかに心地よい。

その風水の一応用に都等大都市の立地条件がある。曰く、「南に平野、北に山、東に川、西に沼」があるところが良い。実際、奈良、京都、東京（江戸）、ソウル等主要都市のみならず、江戸期の藩の一国一城の地もほとんどそうである。松本城、松江城、彦根城等々具体的に見ると分かる。たしかにこの配置は、住む人々に安心と適度な変化を与えている、少なくとも私はそう感じる。

また、古代人の生活の観点から見ても、川は水のために、山は狩猟のために、平野は栽培のために、そして沼は希少産物のためにちょうど揃って必要十分だ。ただ、それにしても方位まで限定するのは過度の制限になるのではないかと感じる人も居るかもしれない。そして風水はむしろ、方位の方に重点を置いている。

たしかにこの条件は行きすぎると、立地条件の不当な制約になりはしないかという気もする。文化の中心としての都ならともかく、城など軍事上の拠点としては、むしろ難攻不落な自然の要害の方が良いのではないか。

もちろん風水を無視したからと言って、直ちに大災害が来るわけではない。実際に西欧都市、例えばモスクワなどを見ると、当然のことながら風水のことなど完全に無視して立地開発されていて、何の不便もない。ただ、一旦風水を学んでしまうと、一種の「座りの悪さ」のようなものは感じるが。

## 瞑想録（そのプレ）

それに東洋の立地は風水が基準と言っても、決して杓子定規な当てはめにはなっていない。例えば京都の場合、西に沼らしい沼は見えない（昔は小さいのがあったが）。他の都市も「そういう目で見ればそうかもしれない」といった程度で、かなり応用自在、融通無碍である。

また、今のように人口が増えると、風水のことなど言っていられないのが現実だ。結局風水、これはある種の美学であって、究極の理想像、極限（数学の意味で）なのである。制限と言えば制限だが、ではあえて乱雑を求めるのかということなのである。

そして風水のこの辺が、多様性と統一性のころ合い良い混じり方ではないかと、私は感じている。

### 24、虚数は本質か便宜か

虚数は便利であり、数学や物理学をはじめとするあらゆる分野に顔を出す。では虚数とは本質的なものであろうか、それとも単に便宜なものであろうか。

便利であることと本質的であることは根本的に異なる。例えば電磁気学は虚数を使うと記述に便利だが、もし単に便利なら2つの式をまとめて書いただけに過ぎないし、他方電磁力が宇宙の基本となる4つの力の1つであることを想起すれば、何らかの本質があるようにもみえる。

常識と異なるところに本質があると言うのは最近の物理学ではむしろ常識である。例えば電磁気学で観測量であるところの電場・磁場は単に見掛けであって、実は四元電磁ポテンシャルこそが本質的であることが、アハラノフ・ボーム効果（AB効果）によって示されている。

で虚数であるが、あるいはこれと同等のコーシー・リーマンの関係式であるが、これを使うものの実はこれが単にそら似であって便宜に過ぎない場合も実際にある。例えば構造力学の一分野である破壊力学に於いて、応力関数をコーシー・リーマンの関係式で記述するが、構造力学などと言う古典力学の権化に虚数が本質な訳がない。

あるいは、流体力学の支配方程式であるナビエ・ストークスの式と、金融工学の基本式であるブラック・ショールズの式は極めて類似していて、プログラムはかなり横流し



## 瞑想録（そのプレ）

できるほどだが、流体力学と経済に根本的な関係があるとはおよそ思えない。このように偶然の場合も多いのだ。

それにもかかわらず類似に根本のにおいのかぐ人も、特に理論屋に多い。量子論に例を取ると、量子論の基礎方程式であるシュレーディンガーの波動方程式、これには虚数が普通に入っている。この自然さは、単なる便宜とは思えないのだ。

そして、シュレーディンガーの波動方程式は、大元の一般力学がニュートンの方程式なので非相対論的だが、相対論的量子力学の支配方程式であるディラックの波動方程式になると、さらに「上位」の、パウリ行列と言うテンソル、四元数が記述に必要となる。もっともこれも4つの式を1本で書くための便宜と言う偶然論もいきなりには否定できないが。

さらに3次及び4次の代数方程式の理論解にも自然に虚数が入っている。この辺になると自然過ぎて、単なる便宜とは思えないのだ。というかもし便宜だとしたら複数の式に分解できるはずだが、この理論解の場合は分解が考えにくい。

と言う訳で、本質か便宜か、なかなか難しい問題である。

## 25、究極の悟り

東洋哲学・宗教の究極の目的は悟りを得ることです。悟りとは宇宙の根本法則を体得して安らかな境地となることです。人は悟ると、細かいことに患わなくなります。根本法則に比べれば小さなことに過ぎないからです。またその人の発する言葉は、一言で事態を広く深くカバーします。根本法則に基づいているからです。

さて、悟りにもその程度や種類によって色々あるわけですが、思うに最高の悟りとは「どうにかなるさ」という心持ちではないでしょうか。人生には病老死苦等色々あるわけですが、これらにいちいちおどおどしない。もちろん無関心ではなくむしろ深く同情しますが、しかし捕らわれません、左右されません。一見無責任かと思えるほどの「どうにかなるさ」、これこそ最高の境地でしょう。

ここで視点を変えて、現実にも目を向けてみます。福島で原発が爆発しました。想定外です。確率論的には100万炉年に1回以下の出来事です。確率論的安全評価、これは「もし停止系が作動しなかったら」、「そのバックアップもダメだったら」と連鎖的に掘



## 瞑想録（そのプレ）

り下げていく評価システムで、それ自体は悲観論に基づいていますが、宗教とは違う科学技術なので仕方ありません。

しかしながら掘り下げも際限なくやるわけではなく打ち切る、つまり想定外については無視します。つまり「なるようになるさ」と言うことです。この態度は先に挙げた最高の悟りに近い境地です。ところが福島では現に想定外が起きてしまって、しかもとんでもなく発散しています。とてもなんとかなりそうもありません。

これは先の主張「なんとかなるさが最高の悟りだ」が過ちだということなののでしょうか。人生一般でも、仮に悟った人でも、運が悪ければ坂を転がるように破滅の道をたどらうと言うことなののでしょうか。

あるいはそうかもしれません。それでも何とかなるのです。それは人の知恵によってではなく、仏のあるいは宇宙の究極のあるいは最高神の救済によってです。そこにいわゆる信仰の本質があります。そしてそこに、先に「似て見える」と指摘した悟りと無責任の、実は大きく異なる本質があるわけです。「信仰」と言う言葉を挙げましたが、これは知識ではなく救いでもなく、これら至高のものとの合体と言う実体験のことです。

ではフクシマはどうなるのでしょうか。これは対応に当たる人々の悟りと責任の加減に依ります。自衛隊もそうでした。長い間「税金泥棒」と呼ばれ、最近も「爆発装置」などと呼ばれながらも、特に大震災復興で着実に活動して、国民の支持を得ました。

原発も今はぼろくそですが、困難を何とか着実に乗り越えて世界初の収束に至れば、人々の声はいずれ称賛に変わるのではないのでしょうか。だからと言って脱原発の流れが変わるという訳ではありませんが。

## 26、局面に打たせる

7冠王を達成した将棋の羽生善治名人、彼の打ち方を「こちらの意思で攻めるのではなく、局面の流れに身を任せて勝つ」と評する人は多い。たしかに彼は打ち方に無駄やすきがないし美しい。株の優秀なトレーダーにも同様のことを言う人は多い。曰く「儲かったのはただ相場の流れに身を任せたからです」。思うにこれはある種悟りの境地ではないか。

## 瞑想録（そのプレ）

ならば我々もこの態度を日常に応用してみようと言う気になる。つまり、会社の指示の言いなりに滅私奉公し、親や親戚の言いなりに古い親戚づきあいをし、国や自治体の言いなりに良い市民をやって、出来るだけトラブルやごみを出さずに死んでいく…のかな。

もしそうだとしたら、これは魂の解放たる悟りとはむしろ正反対の境地と言うべきではないか。つまらない仕事を押し付けられ、親の面倒を不公平に見させられ、かつ重税にあえぎながら人知れず死んでいくのが、すなわち悟りであろうか。どこか変だよね。これが変だと思わないのはマインドコントロールを受けたキリスト教徒くらいだ。

羽生さんと単なる我慢の子、一体どこが違うのだろう。羽生さんのやトレーダーの場合、流れに任せて防ぐ・受けるだけでなく、チャンスが来ればすかさず打って出ている。普通の人と違うのは、強引に割って入って攻めるのではなく、向こうからやってきた攻め時を目ざとく見つけて的確に攻め入っているということだ。流れにまかすと人の言いなりは全く違う。

むしろ流れに任せれば、相手がことさらにミスをしたのでなくとも、自ずと攻め時が巡って来るものだ。なぜならば完璧な打ち筋などそうそう都合良くあるものではないから、相手がその時の最上の手を打っても、なおその陰に攻め入るべき隙は必然的に口を開いている。そこをジグソーパズルのように的確に埋めていけば、自然と勝利が転がって来るのだ。

言わば状況や環境と調和した、アニミズム的な打ち方である。我々も人生をこのように直観を磨き研ぎ澄まして、美しく勝利したいものだ。そして願わくは国防も経済もそうだ。

## 27、AKBとポケモン

最近マンモスユニットのAKB48の活躍が目覚ましく、新曲が発表と同時にベストテン入りとか、武道館の公演が大入り満員だったとか言っている。特に売れっ子のメンバーはTV番組の主役にもなった。他にも乃木坂46とかその他、売り出し中のも含めると10ユニットを下らないそうだ。

なぜ最近マンモスユニット流行りなのかについて、先日評論家のコメントが出ていた。彼によると、歌謡界が大きく、歌唱からバラエティーに、ステージから触れ合いに変わったために、それに都合が良いように多人数のユニット化が進んだのだと言う。

## 瞑想録（そのプレ）

また、ブログ仲間の水がめ座さんによると、この手のマンモスユニットの特徴は現代の没個性化、ある日取り変わっても気づかないほどの人間部品化の反映であると言う。

どちらもその通りであると思うが、私はもう一つの要因を付け加えたい。ユニット化の走りと言えばモーニング娘、今から10年ほど前だ。そして10年ほど前と言えば歌わないけどやはりユニットで、今や世界中に普及しているポケットモンスター、ポケモンが始まったところである。

モーニング娘第1期生は13人、ポケモン第1期は約100体、いずれも当時これだけ沢山の主人公軍団は革新的だった。そしていずれの企画者も、最初から売れる自信があったわけではなく、ダメ元で始めて結局大化けしている。だからユニット化を語るには生身のユニットのみでは不足、架空生物のポケモンも共通で語るべきだろう。

そしてポケモンを語るキーワード、それは理想化とうんちくである。私や水がめ座さんのようなおじさんにはもう区別もまるで付かないが、うちの娘には今は約500体も居るポケモンが一张张違ったキャラが立っていて、しかも現実ではありえないファンタジックなキャラで、同じくポケモンに詳しい友達とは、スカイプ等で何時間でも話している。実に多次的なインスピレーションと物語の源なのである。

同じようにしてAKBオタク達、公演の切符を徹夜で取るとか、握手する権利を、ダフ屋を雇ってでも手に入れるようなファンは、もうメンバー一人ひとりの個性がキラキラ際立っていて、その奥にいちいち語りつくせないファンタジーと物語があふれており、それらが織りなす相互作用一切合切を合わせてAKBなのだ。個性が光ったたくさんのメンバーとその相乗効果、これが現代の若者のうんちく心、うんちくの競争心をつかんで離さない構造となっている。

その意味でAKBも生身でありながら同時にネット上の架空の生き物でもあり、自由に操れるものなのだ。握手をしても相手は同時に生身であってかつメディアでもあり、好きな思いを仮託できる。その根っこにはメンバーのある一人では醸し出せない、「集団のムンムン」があるのだ。そしてこのムンムンが、フェロモンの代わりをして、若者を生身の仮想空間へと誘っているのだ。そして更にその奥には多神教の伝統がある。

## 28、カルトの本質

## 瞑想録（そのプレ）

論理学の定理に、「矛盾が1つでもある論理体系に於いてはすべての命題が真である」という定理がある。西欧式確定論理学に於いては、背理法を見れば特徴的であるように、矛盾の存在が命取り、矛盾さえなければあらゆる命題に真か偽かいずれかを必ず決定できる。これは良いだろう。と言うことは、その裏返しとして、もし1つでも矛盾が内在していれば、すべての命題を真とすることが出来てしまうのだ。

さて、キリスト教、特にプロテスタントの組織神学は、極限まで矛盾を除去しようという至上命題の元に出来上がった論理学である。だからほとんどが形式論理の塊なのだが、それでも生身の人間の心理を相手にするものである以上、まじめにやろうとすれば矛盾の完全回避は不可避だ。そこで、「矛盾の数を最低限にする」という方法で、矛盾の存在を目立たなくしている。

ここで残った矛盾、あるいは荒唐無稽とは、処女受胎、十字架上の死と復活による罪の許し、最終戦争（ハルマゲドン）の3つである。言いかえればこれら3つさえ鵜呑みにできれば、あとは論理と言う理性ですべてが展開・理解できるというわけだ。そしてこんな当たり前のことが出来ない人はサタンと言う烙印が押される。

さて、この飲み込む3つ、常識的にはかなり荒唐無稽だ。特に見ず知らずのイエスさんと言う他人が2000年も前のあなたが生まれるはるか前に、既にあなたの罪のために死んでいた、これを飲み込むには常識を相当捻じ曲げないと出来ない。そして捻じ曲げると、「悩み苦しみをすべてイエス様に預ける」と言うことが論理的に証明されるとのことだ。もっとも私にはまだ理解できないが。

さて、ここで無理を承知で常識を捻じ曲げた結果どうなるかと言うと、その人は生まれ持った自然な感覚を喪失するようになり、防衛本能を無理に消し去るようになる。その結果、以後はどんな荒唐無稽でも信じられるようになってしまう。魂を完全に抜かれてしまうのだ。これは恐ろしいことだ。

どれだけ恐ろしいかと言うと、「その辺にたまたま転がっているおっさんがあなたの救世主だ」などと言うことすら無防備に信じてしまう。実にカルト入信の始まりである。冒頭で述べた論理学の定理、「矛盾を一つ飲み込むと、以後どんな言い分も真であると思えてしまう」を地で行っている。

現にほとんどのカルト、キリスト教系でないものでも、信徒のマインドコントロールにはキリスト教から拝借した「ハルマゲドン」を使っていて、これでこき脅して信徒から金を巻き上げ、奴隷のようにこき使うと言う仕組みになっている。この意味でキリスト教

こそ元祖カルトである。頭の構造が単純に論理的である人ほど引っかかりやすいのも、このためである。

## 29、サルの子のパラドックス

国民の皆さん、あなた方には自由主義社会ならではの選択の自由があります。次の中から選んでください：

- ①投資で大損こいて、借金まみれのままパンツードで放り出される、
- ②会社都合で勝手にリストラされて、家族崩壊の上に日雇生活になる、
- ③ALSになって、体が動かないままいつまでも生きながらえる。

どう思いますか。たしかに選択の自由はあります。その意味で宣伝文句はウソではないのですが、つまらない選択肢しか存在せず、結局必然的に不満足な結果に終わるしかあり得ません。これは逆理です。こういう状態をここでは「サルの子のパラドックス」と呼ぶことにします。サルは子の中の実を離さないと手が抜けずに捕獲されてしまう、しかし放すと実が手に入らない、いずれにしろ良いことがないからです。

現在の投資・利殖環境もこういう状態だと思いませんか。身動きしないで居ても株価の下落で資産は目減りするだけ、と言って苦し紛れに動いても、株はもちろんFXにしても不動産投資にしてもあつという間に大損こえてかえってアリ地獄にはまるだけ、これでは自由とは名ばかりの「自由主義国」と言わなければなりません。

しかも自由とは裏表の自己責任だけはしっかりあって、転げ落ちたら家庭崩壊、日雇人夫、ホームレス街道まっしぐら。借金達磨で夜逃げ。そうでなくても税金や保険料はばっちり取られ、年金支給年齢は後退し、日々の衣食住にどうしてもお金がかかり、本当の可処分所得は雀の涙です。

加えてバカにならないのが、車、エアコン、パソコン、携帯電話と言った新たな文明の利器の固定費と維持費です。便利にはなったものの実質家庭に1台が常設状態で、社会もこれを前提に出来ているので、拒絶できません。そして「円高の今こそ海外で消費を」などと言われますが、海外利益の享受は使うことが前提であって、金持ちのみの特権に過ぎません。



## 瞑想録（そのプレ）

世の中の自由主義、もちろん依然として共産主義よりはましではありますが、名ばかり管理職ならぬ名ばかり自由主義、羊頭狗肉、看板に偽りあり、サルツボ逆理は人間性を悪くします。

我々は不安定平衡の上に居るということです。不幸はいつでもやってくるが、ラッキーはめったにない。常に警戒していないと、転がり始めるとあっという間、借金達磨のホームレスに直行だ。投資でドボン、起業でドボン、何をやってもドボンで身ぐるみ持って行かれる。

### 30、ピラトとヘロデ

原始キリスト教の開祖のイエスさんの時代、ユダヤはローマの属州であって、在ユダヤのローマ総督がピラトゥス、ユダヤの王がヘロデ大王であった。言わば少数の支配民族が圧倒的多数の被支配民族の上に乗った、不安定な政治形態にあった。

こういう状況ではローマ人も「支配者でござい」と、只でかい顔をして威張っていれば済むものではなく、被支配民族たるユダヤ人のご機嫌をある程度伺いつつ自分の任期をつつがなく終えると言う、事なかれ主義の处世術に走るようになる。この様子は新約聖書の福音書や、作品ではあるがベン・ハーに良く描かれている。

私はこの経緯を学生時代から読んで知識としては知っていたが、実体験は無かったので、なぜこうもお互い卑屈になりながら、腹の内を探り合いながら、責任を押し付け合って、つまらないエネルギーを垂れ流しつつ醜く生きなければならないのか不思議であった。

そんな私も卒業と同時にある私企業に入社し、直ちに地方の工場に配属された。そこは社員の9割以上が高卒の、言わばたたき上げ社会であった。そしてそこで図らずも、現代版ローマとユダヤを体験することになる。

その工場は、どこの会社でも工場はそうだろうが、大きく言えば、管理職で転勤組の学卒と、組合員で一般職の現場の高卒と言う構成になっていた。そして会社も上意下達が原則であるから、単に学卒が高卒に指示を出して居れば良い社会かと最初は思っていたが、現実はずしもそうでなかった。

一番顕著なのは、学卒が高卒の顔色をうかがう習慣である。もうほとんど習慣化していて、高卒も当然その気で居た。変に高卒をほめあげたりするのだ。要するに中間管

## 瞑想録（そのプレ）

理職として板挟みにならないための知恵、本社からどうしても指示が出た時は、高卒に頼み込んでやってもらうためなのだ。もちろん恩は売られて、後で何らかの見返りをしなければならないが。学卒はとにかく任期の3年を大過なく仕上げたいだけなのだ。

それから高卒の持ち分である現場の諸作業に一切口出しはしない、これも鉄則なのだ。やる気のない管理職はもちろん余計な口出しなどするはずがないが、やる気のある人でも、たとえ高卒の手際が悪かろうがけんかしていようが見て見ぬふりが鉄則だ。

高卒の人事も、事前に内々で高卒のボスに相談して決めている。それから高卒の内のほんの一握りだが、部長職に特進させて下手な学卒よりも偉くして機嫌を取っていた。

更に究極が2流大卒のうだつが上がらない学卒（現場の万年課長）の摩訶不思議な態度だ。ほとんど高卒のためにある労働組合にすり寄って、情報をご注進したり、逆に極秘情報を得たり、もっと更には労働組合に頼み込んで、その隠然たる力で昇進させてもらったりしているのだ。定年間際に副部長にしてもらい、退職金を余計に貰おうと言う算段で、公務員が議員にすり寄るのと同じ構図だ。

現場勤めの数年間、単純作業と部外者扱い、さらにはその高卒たちの何の人生の目標もないその日暮らしと愚かさのオンパレードと、人間の嫌な面をずいぶんと見させられたが、本の知識でしかなかった古代ユダヤの複雑社会を目の当たりにしたのは、人生のとても大きな収穫だったと思っている。

きっと戦前の関東軍でも同じようなものだっただろう。

### 31、やってきた非日常

我々一般庶民が嫌でたまらず何とかならないかと毎日希求するものに、判で押したような日常があります。毎日同じ時間に目覚ましで起きて、満員電車で揺られて会社に行き、面白くも何ともない仕事をそれなりにこなし、退社後また電車で揺られて朝来た道を逆戻り、家について風呂に入り、ちょっと発泡酒でも飲んだら寝る時間、数時間後はまた振り出しに戻る。本当に嫌になります。

## 瞑想録（そのプレ）

「ある日出社してみたら会社が燃え落ちていないかな」とか、「上司が急死していないかな」などと、本当に起こっていれば返って仕事が増えて面倒臭いようなことなのですが、こういうことを願うのは2度や3度でない、誰にでも思い当たるでしょう。自営業だって大して変わりません。毎日餃子を焼いたり、あるいは野菜を売ったり等々、しかも同じ屋根の下で、やって居られません。

こうして毎日希求する非日常、その最たるものが実に先日やってきました。太平洋沖大地震と原発爆発です。これはすごいですよ。なんせ前者は1000年に1回、後者は理論上起こり得ないのですから、これ以上の非日常はおよそ考えられません。10年に1回の皆既日食に大騒ぎし、100年に1回のハレーすい星に感涙する。それが1000年に1度です。およそ34世代に1回です。願っても体験できません。

と、こう言うと怒られそうです。「我々が願っているのはうれしい非日常だ」と。もちろんそうなのですが、うれしい非日常、例えば宝くじに当たるとか株が大化けするとか遠い親戚の遺産が転がり込んでくるとか、そう言うことってそれこそそうそうないのですよ。そうそうあったら人は調子良いもので、たやすく日常に組み込んでしまいます。

だから人々が希求する非日常、現実にかかるのはほとんどがより不幸な場合です。中でも最悪なのが自分のせいでない非日常、会社が倒産したり、嫁さまが家出したり、息子がニートになったり、車にぶつけられるとかです。ある有名な哲学者は「幸せは一種類だが、不幸は人の数だけある」と言いましたが、まさにこれが現実です。

結局我々は日々のラットレースに甘んじて日常を生きるしかない。その枠の中で食って笑って死んでいく。で、もらってしまった非日常の最たるものの、いまだに原発避難所暮らしの人々、何と申し上げて良いものか、言葉もありません。先日の台風でうちも夜に2時間ほど停電になりました。まあこれも非日常ですし、おろおろして不安な時間だったのですが、避難の人たちはこの何千倍もやっておられる。

たしかにこの事実を前にすると我々も決してわがままや愚痴など言えません。日常に感謝します。原発避難の方々、願わくは今回の非日常を生かして新たな文化を創造して下さい。相馬焼や浪江焼きそばや飯館牛が、例えば避難された埼玉県の新名物として新たな地にも根付いたとしたら、これは素晴らしいことです。

こう言った非日常こそ、私どもは期待したいです。

## 32、経営マインド

地頭問題の1つとして、経営マインドを問う問題を出します。入社試験だと思って一緒に考えて下さい。

[問題]あなたはハンバーガーチェーンの社長です。そして貴社の商品につき、「ネコの肉が入っている」というあらぬうわさを立てられました。どう対応したら良いでしょう。

回答例

- 1、噂を立てた人を探し出して謝罪させる。  
→探し出すのが極めて困難な割に、個人いじめと思われかねない。
- 2、工場を公開してどこにも猫がないことを見せる。  
→人々は会社が正直だとは思っていないから、「都合の良いところだけ見せている」と思われかねない。
- 3、みんなの前で自社製品を食べてみせる。  
→「テメエの会社のためなら誰だってそのくらいやるよな」と冷ややかにかわされかねない。
- 4、第三者委員会を作って検証してもらう。  
→一応客観性は出るが、手間と資金がかかる。やり過ぎると返って逆宣伝になることもある。
- 5、消費者団体に抜き取り検査をしてもらう。  
→消費者団体は基本的に反産業界だから、「猫の肉がありました」と発表されかねない。
- 6、下手に反応すると勘繰られるので、放置する。  
→無手順も一つの手順ではありますが、早めにもみ消さないと収拾がつかなくなる恐れもあります。
- 7、日本中の猫の数を調査して、減少していないことを明らかにする。  
→これを統計上示すのはかなり骨が折れる割に、有意な差が出るほどだとしたら大変なことです。

8、ライバル会社の製品に「犬の肉が入っている」と逆宣伝をする。

→苦し紛れに敵を巻きこんで泥仕合をしていると、軽蔑される恐れがあります。

こうしてみると、なかなか上策って、ないですね。

ある意味今東電が仮にいくら誠実にやっても、「ウソだろう」「隠している」「埋蔵金を出せ」などと言われて

いるのと似た局面です。

### 33、話せば分かるのか

「待て、話せばわかる」「問答無用、撃て」、バキューン。

今から80年前の五一五事件で、当時首相だった犬養毅が決起した青年将校に暗殺された瞬間である。そしてこの事件は言論の自由に対する暴力による封殺と言う許し難い悪しき前例として今も語り継がれている。

そのこと自体には反論はないのだが、本当に何事も、「話せば分かる」、つまりどんな係争も理屈による口先の話し合いによって解決できるのであろうか。それはむしろ、「弁論信仰」とでも称すべき、余りにも素朴すぎる信仰と言えないであらうか。

思うにこの素朴な信仰には、特に東洋人の伝統的な意思決定プロセスに鑑みて、大きく2つの問題があると、私は思う。

第1に、議論はすべてをカバーするのかという疑問である。つまり、議論や理性は決して万能とは言えないのではないか。話しても分からない、解決しないことの方が実はよっぽど多いのではないか。いわゆる以心伝心、あるいは空気を読むと言った、話さなくても分かることこそが大切であり、よっぽど本質的なのではないかという問いである。放射能に例えれば、「議論は(非放射能も混じるものの)放射能を100%回収できるのか」と言う場合である。

第2に、議論は常に真なのかという疑問である。つまり、理屈はしばしば上滑りして詭弁に走り、現実から乖離すると言う事実を無視していないかという問いである。放射能に例えれば、「議論は(放射能を全部は回収できないが)回収したものは全て純粋に放射能か」と言う場合である。

「話せばわかる」、この理性主義は犬養毅と言う護憲家の面目躍如であるが、しかし他方で弁論主義と言うものが日本にとっては純粋に欧米からの輸入物であって、キリ



## 瞑想録（そのプレ）

スト教とまったく同様に、日本にとって根付いていないし本来根付けない性質のものなのではないか。もっとはっきり言えば、「物事は話し合いと理屈で全部理解できる」とは高々都市伝説の1つに過ぎないのではないか。

以前、流れや局面に打たせることの重要性を指摘した。思うに、この時の青年将校達の行動は乱暴だし自滅的であるが、それでもこの時の彼らにとってはこれが最良の打つ手だったのではないか。そして最良の手が必ずしも完璧でないように、彼らの打った手は結局彼らを自滅させることになってしまったものの、その心根は良くも悪くも5年後の二二六事件に引き継がれていく。

イエスさんはかつて、「聞いたから信じたのか、聞かずとも信じる者は幸いである」と言いました。欧米弁論主義の本来の守護神のイエスさんですらも、弁論万能主義を否定しています。もっともこの貴重な教えは、愚か者の使徒パウロによって空洞化してしまいましたが。

現代は当時以上に暴力はいけない。どんな事情があろうとも力に訴えてはならないのだ。それはそうなのだが、それにしても犬養さんと言う人物、所詮は日本近代史に咲いた一輪のあだ花であったのではないか、「日本人外人」であったのではないかと、一種の無力感は強く感じる。

### 34、分かっているけど辞められなかった

「分かっちゃいるけど辞められない」、これ、往年のコメディアン植木等の決まり文句で、この場合辞められないのは梯子酒とホームのベンチでごろ寝だったから、まあ可愛いようなものだった。

10年ほど前、当時の売れっ子アナウンサーで、「その時時代は動いた」等の高視聴率番組を持っていた松平定知アナが、タクシーの運転手を殴打すると言う「事件」があった。当時はワンマンで有名なシマゲジこと島圭次がNHKの会長だったころで、順送り人事が不文律だったエリート集団のNHKで、鶴の一声で2階級特進になり、やっかみと重責に加え、高視聴率維持のストレスもたまって「凶行」に及んだらしい。

結局謝罪して番組を下り、2年ほど事実上の謹慎処分、その後現役復帰したが、理事はおろかアナウンサー室長にもならず定年退職した。思うにあの事件さえなけれ

## 瞑想録（そのプレ）

ば、松平さんの知名度なら、おそらく今頃は東京都知事か国会議員になっていたことだろう。バカなことをしたと言えどその通りだ。

だがこのストレスだらけの時代、手抜きなしにまじめにやっていればどうしてもイライラがたまると言うものだ。そのいらいらを制御できるならそれに越したことはないけれど、「その時時代は動いた」、松平さんは事の他の力の入れようだった。彼のおかげでもっているような番組だった。それも偉くなりたいからと言うよりは、自分の芸術に全力を注ぎたい、そういう情熱のほとばしりに見えた。

その結果のチョンボ、私は敢えて言うが、仕方ないじゃないか、人間だもの。私は責めないよ。理性に帰って損得勘定すれば、その時どうすべきだったかは自明の理なのだけど、でも人間理性だけでは生きられない。逃した魚、代償は大きかったかもしれないけれど、良いじゃないか、それも含めて人生さ。

松平さんと同じく情熱の人に、米国の著名TV伝道師ジミー・スワガートが居た。彼の場合は、買春事件を起こして没落した。仕事が仕事だけに買春は命取りだったけど、他方であのほとばしりあふれるエネルギー、やはり聖書だけではとどまらずあっちのほうにも向いてしまったようだ。この人もその事件がなければ今頃州知事か場合によっては大統領候補だっただろうが、結局はサルのはずのツボのパラドックス、どのみち手が届かないものだったのだな。

こういう例って数え上げると結構あるね。惟任日向守(明智光秀)の謀反とその後の無残な死、最近では右翼の論客で生きていれば今頃皇室相談役になっていただろう江藤淳さんの自殺等々、おいしいけれども、私は「それも含めて人生さ、お幸せに」と、責めずに祝福したい。

### 35、古事記と量子論

先日、ある事情で古事記を読んでいた。今回は全体像のラフな把握が目的だったので、解説本を使った。他方、別の必要で量子力学の教科書を復習していた。これらをたまたまではあるが、同時並行的に読んだのである。実はもっと深い根っこがあって、どちらも蓋然論の別の面での考察に資するために読んでいた。

それぞれがどう役に立ってどういう具体的な知見を得たかは別途記事にするとして、本日は同時に読むことによって発生した相互作用について記してみたい。一言で言え

## 瞑想録（そのプレ）

ばこれら互いに「無関係」な分野が、相互に刺激して盛り上がり、膨大なエネルギーの解放、ダイナミックな行き来とやりとりがあったのだ。

古事記の予断を許さない多様な展開、時には乱暴でありまた時には沈着とした波乱のあるダイナミックな展開が、量子論をして、「本当はまだ見つかっていないが、これほどの荒ぶる展開が隠れているのだぞ」と言っているようであった。

他方で量子論の、日常の感覚を裏切る、しかし論理整然と統一的な式で書け、かつその支配方程式の数学でない物理の大胆な仮説、解釈は、古事記をして、「もっと深読みしろよ、もっとぼろぼろ外道が出てくるぞ」と言うかのようであった。

いずれにしてもあの時の感動、驚きは、解説すると上記のようになり、解説がないと人には伝わらないのだが、他方で「言葉にするとウソに染まる」という歌の文句のごとく、説明にはなっても感動は表現できない、伝わらないもどかしさはどうしてもある。

ところで上で「荒ぶる神」という言葉を使ったが、八百万の神の中には荒ぶる神も居る。素戔鳴尊(すさのおのみこと)が具体的な代表格だが、理不尽に大した理由もなく他の神や人を殺す神は少なからず居るし、他方でそれをかばう、あるいは生き返らせる、「拾う神」も居る。

まことに神話の世界は理性を凌駕してきらめいていて、その織りなす美しさには言いようがない。私たちを取り巻く森羅万象が理性を凌駕していることをそのままに反映している。そしてその直系に天子様、つまり天皇家がある。身近なところではポケモンやAKB48もこの傍系だ。

先の東日本大震災、まことに荒ぶる神のなせる技であろう。だが他方に拾う神も居る。そして震災に遭われた方々には、「苦労や悲しみを通じて返って生きる喜び、感謝を感じた」と言う人も少なからずおられる。そしてこれこそ真に八百万の神の実相であり、また生来の量子論の実相である、そう感じた。

## 36、株と馬

先日、某大手証券会社の地元の支店が開催する、経済動向講演会に出席してきました。私はこの手の講演会に出るのは初めてですが、その日は200人ほどの聴衆が居ました。で、先ず驚いたのが聴衆たちの年齢の高さです。休日の開催にもかかわらず

## 瞑想録（そのプレ）

ず、70歳に手が届くと思われそうな爺さんたちのオンパレードで、私だって定年間近ですけどほとんど最年少でした。

話もそれなりだったのですが、こう言った聴衆を観察していて感じたのは、例えば競馬場のような、「絶対当てるぞ」とギラギラ脂ぎった感じが全く無いと言う意外さでした。株だって究極の目的は儲けることですから、こういうギラギラした人種を予想していたのですが、意外でした。

皆さんおとなしく静かに聞いています。そう言えば服装もみなさんラフではありましたが、黒メガネに革ジャンと4色ボールペンなどと言う人は居ませんでした。同じ賭けごととは言いながら客層は全く異なり、あたかも昔はそれなりのサラリーマンだったと言う感じです。

そしてこれらの情報を総合して見えてきたのですが、これらのちょっとまじな爺さんたち、株を単なる金もうけとしてではなく、むしろ体の良い趣味、つまり時間潰あるいは老人向けのゲームの感覚で参加しているのではないかと思えました。つまり極言すれば、多少すってもそれに勝るスリルがあって、かつ暇が潰せれば満足なのです。その程度の小金は持っている感じでした。

それにしても株と馬、どちらもスリルある金儲けと言う、言わば「同じ穴の貉（むじな）」なのに、かたやちょっとハイスな頭脳プレイ、他方は下品なオヤジの気晴らしと、どうして世の中の評価・イメージがこうも違うのでしょうか。やるのに必要なコツや勘、それに知識の量は全く変わらないと思うのですが。

何度か挙げた小話で恐縮ですが、同じ「車が人を轢いた」でも、轢かれたのが赤ん坊だと「けしからん、いたいけな子供を、死ね」となるのに、轢かれたのが酔っぱらって道路に寝ていたオヤジだと、「あはは、バカなオヤジだ」となる、この種類の違いですね。

実はちょっとした「違い」が単にイメージだと気づくところから、しばしば新規ビジネスの芽が出ます。新聞も銀行も俳優も、昔は皆やくざでニッチな商売でした。馬自体は依然としてやくざな分野ですが、これが獣医学とかスポーツ力学とかにちょっと視点を変えると、将来有望な新規インテリ分野になります。

と言う訳で、証券会社も時代に合わせて、インテリ老人ビジネスを強化しているように見えます。

### 37、明智光秀父子の運命

明智光秀、言うまでもなく、革命児で時代を先駆けた織田信長に、謀反を起こした人物である。謀反を起こした一説に、光秀の理想は信長とは逆に復古、つまり政（まつりごと）を天子様や貴族に返還することであり、信長の野望と正反対、その理想の違いのゆえに信長に失望して逆恨みし、反逆に至ったと言われている。今でいえば国粋主義の超右翼と言ったところか。

光秀には何人か子供が居たが、歴史上有名なのは三女のお玉、細川ガラシャとして有名な女性である。細川家の当主の細川忠興に嫁いたが、光秀謀反後幽閉され、その間キリスト教の洗礼を受けてガラシャ（神の恩寵の意味）なる洗礼名をもらっている。

ガラシャは、忠興出陣中に石田光成が彼女を人質にとろうとしたところ、これを嫌って、だからと言ってキリスト教のために自殺はできない代わりに、部下の小笠原少将の手にかかって非業の最期を遂げている。

当時の日本におけるキリスト教は、西欧列強の植民主義の手先として、土着民宣撫の先兵としてやってきたものであり、その洗礼を受けたということは、今風に言えば、亡国の超左翼と言うことになる。国粋主義の超右翼の娘が亡国主義の超左翼、図式的にみると極めて親不孝な娘で、父親と似ても似つかないということになります。

でも果たしてそうでしょうか。親子同志で遺伝もなく、ただ全く逆なのでしょうか。もちろん性格の全く似ていない親子と言うのも世の中にはいくらでも存在します。でも、以前指摘しましたが、70年代の左翼学生運動の正統後継者が現代の若者のネット右翼であるがごとく、両極端にはしばしば、正反対と言う深い関係があるものです。

そして光秀とガラシャ、実は表面上の逆とは裏腹に、性格は極めて類似していると私は見ます。その類似点とは、新規なものよりも権威や歴史や伝統の重みと言った古いものに愛着を感じる、論理的形式的な物の見方感じ方です。その感覚が光秀をして貴族社会に憧憬を抱かせ、またガラシャをして西欧式の重厚な基督教社会に救いを見出したと言う訳です。

加えてこの「現実よりも論理や形式を重視する性向」、今例に挙げた学生運動&ネット右翼をも貫く共通の性向でもありますね。つまり光秀親子、頭脳も切れたことですし、



仮に今生まれていたら、例えば西尾幹二とか赤尾敏、あるいは福島瑞穂のようなさぞ高名な論客になっただろうと思うところです。

こう言った歴史の見方、学び方もあって良いのではないのでしょうか。

### 38、親切な外人

3年半ほど前に一人でサンフランシスコの街並を歩きまわったことは、そのあと帰ってきてすぐにブログ記事にしたところですが、その過程で遭遇した、当時のブログには載せきれなかった、ちょっとしたエピソードを、今ここにアップします。

私はその時ちょうど、サンフランシスコの郊外から、市の中心地に位置するホテルに向かう路線バスに乗っていました。すると途中から乗ってきて私の隣に座った中年の地元の女性が私に話しかけてきました。

始めはどこから来たのかとか、何のために来たのかとか、どこを見て回ったのかとかそういう、まあ互いに自己紹介替わりの、さし障りのない話から始まって、話は段々深くなって行きました。

そして、「ローマに始まるシルクロードは最近までは日本の京都が終点だったが、今は細い線がサンフランシスコまで伸びているのではないか」と言う、私の従来からの持論を開陳すると、とても興味を示してきて、「私は大学時代に東洋史を専攻したが、あなたの意見は大変興味深い」と言う感想で、結構盛り上がりました。

で、20分も乗ったでしょうか、その女性の降りるバス停に着いて、その女性が「私はアンドリュースです、あなたの名前は？」と聞くので正直に答えました。日本人の名前は音節が多いせいもあってその女性は私の名前を何度も繰り返すようにつぶやくと、バスを降りました。絵にかいたような一期一会です。

以上の話を読んで、読者のあなたはどう感じましたか。「親切な女性だ」……。そう、親切ではあります。聖書にも「旅人をもてなさい」と書いてあります。彼女はその聖書の教えを実践しました。でもこのやりとりは最後の、「私の名前を必死で覚えた」ところがポイントなのです。

彼女はこの「一日一善」をこの週末の主日礼拝で牧師に、そしてあわよくば信徒たちの前で証しとして証言するための実績として私に話しかけてきたのです。実績、証拠

## 瞑想録（そのプレ）

作りですから、相手の名前を空で言えると言うような具体性は、証しには極めて重要なわけです。

そして私は、ありていに言えばその時に、彼女の点稼ぎの体の良いネタにされたと言う訳でした。

### 39、空気を読むと蓋然論理

「空気を読めよ」とは良く言われることです。いわゆるKYです。なぜ空気を読まないといけないのでしょうか。それは場が、一座が白けるからです。人は交流する時に大抵、一定の目標があります。その目標は交流の進行につれて徐々に設定されて行きます。この期待をぶち壊してしまう訳です。

例えばみんなでさっき見た演劇の高尚さ、素晴らしさについてシェアし合っていたとします。ところが突然そのうちの一人が、その人個人にとっては何らかの連想があったのかもしれませんが、昨日食ったモツ煮がいかにも良かったか話し始めたとします。普通他の人はがっかりして、何とか話の軌道を元に戻そうとしますし、その鈍感な人を二度と輪に入れないぞと誓うことでしょう。

交流の進行につれて構成され構成員に共有される雰囲気的目標、これは個々の構成員の個人的な思いを越えた相互作用の結果ですから、「国民性」や「金利市場」と同様にアナログ集合です。ですから、この共通目標を感じ取る行為、これは蓋然論理と言うことになります。蓋然ですから絶対再現性は保証しません。つまり外れる人も出てきて、その人が雰囲気と言うアナログ集合をぶち壊すわけです。

ところでこの雰囲気と言う無言の強制力、KY程度の時は良いのですが、これが裁判となるとなかなか厄介になります。蓋然論理ゆえに主観が入りますし、物証がないのが普通なので弁論のしようがありません。絶対論理と証拠主義を基本とした現行の法治主義になじまないわけです。

「サービス残業をしろと言う雰囲気にならなかつた」「義父母と同居しろと言う無言の圧力にならなかつた」、人生相談や裁判で良く聞く、つまりそれほど日常的でありながら、これほど立証のしにくい物はありません。立証できないと言うことはやられ損、泣き寝入りになるわけです。

この不立文字な雰囲気と言う蓋然論理に、もっと光が当てられても良いのではないのでしょうか。

#### 40、使命と寿命

人は全員とは言わないが、使命を持っている。他方で当然ながら寿命もある。寿命が来ればもちろんそこで仕事も打ち切りとなるのだが、使命の終わりと寿命の終わりと、同時に終わることは事実上あり得ないことを考慮すると、寿命と使命、どっちが早く終わる方が幸せであろうか。

寿命が早く尽きる人は当然に使命を残す、やり残す、やりたいことがまだありながら、悔しいうちに死んでいくことになる。最近の例だと、漫画家のほらたいらさん、劇作家の井上ひさしさん、役者の緒方拳さんがこのあたりか。まだ生きておられるものの小沢征爾さんもどうもこのケースになりそうだ。遺言から察するとイマニュエル・カントもこちらに来よう。

他方で使命の方が早く終わってしまうと、残りの人生を所在なくつまらなく過ごす羽目になる。有名などころでは20代半ばにして突然才能が雲散霧消してしまった詩人のアルチュール・ランボーが挙げられる。他に最近の人では突然に解任されたところで三越の岡田茂社長、関電の葦原義重社長がこの例だろう。もう少し古い人では、永井荷風や十返舎一九、いずれも老境では創作意欲を失っていた。

前者の場合は「まだまだやることがあるのに」が口癖、後者は「私は長く生きすぎた」が口癖だ。いずれにしても幸福な響きがない。才能のある人は最後には不幸と言うことか、あるいは人の幸せは死ぬまで定まらないと言うことか。

とするならば自分でもわけがわからないうちに死んでいた、交通事故とか心臓麻痺は幸せと言うことになるのだが、これも今一常識としっくりこない。

もっとも先日私は夏の疲れが出て数日寝込んだのだが、この時何気に、頭の意識が遠くなって色々な関心や欲望や現実感が遠ざかっていくのを感じた。大げさに言えば一種の疑死体験だ。この体験で感じたことは、使命と寿命は単純な二律背反とは限らなくて、もちろんそういう場合もあるだろうが、だんだん遠ざかって火が消えるように消滅して行く場合もあると言うことだ。これなんか一番幸せかなあ。もっとも自分で選べるものではないけれど。

瞑想録（そのプレ）

（本論は以上です）